

症に罹つた微で御坐います。

此の病氣の原因は、米とかジャガ芋とか、か様なものを過量に與へたり、又は肉類や青菜類が不足したりすると、起りますもので、主に加熱し過ぎた食物や、刺戟的の食物を過度に與へたのが其の原因で御坐います。

其の上 鶏は、極く狭い柵の内に限られて居るものですから、種々變つた食物を求めめる機會がなくつまり同じ様な食物許り與へられますのと、運動が出来ず食欲も進まず、ブラ／＼して居るから、此の病氣に罹るのであります。

即ち運動が足りないから起るので、早く云ふならば情け病が増長したものと見て良いので御坐います。

これを治しますには、動物質の飼料を増し、セツセと餌を漁つて身體を動かす様に仕向けますと直ぐに治つて仕舞ひます。

即ち運動場に芥屑とか切葉とか、或はモミガラ等を、鶏の脚が没する位迄に、敷きつめてやりまして、其の中に粒餌を撒いてやりまして。

それから血液を冷やす様な食物を與へ、廣い範圍に飼料の配合を變更してやれば良いので御坐います。

此の治療法には、多汁の緑植物が有効でありまして、成る可く新鮮なものを與へると宜ろしい様です。

又硫黃の粉末を與へなければならぬもので、其の分量は鶏が二十四羽居るものとすれば、普通のサジに三つ丈取つて、練餌に混じて與へます。

脚に痂皮の出来る疥癬

脚の趾の根とか、趾の間とか又は脚に、鱗片の様なものが出来まして、これが次第に腫物のやうに腫れて参り、遂に痂皮となりまして、其の部分は穢い色になる事が御坐います。

これは脚疥癬に罹つたのであります。

此の病氣の原因は、大麥の様な加温的の飼料を過分に與へましたり、或は木灰燼炭等を多く敷いた餘り乾燥し過ぎて居る所に、常に遊ばせて置くと、遂に此の病氣が起りますので、直接の原因は一

種の寄生蟲で御坐います。

之に對して行ふ治療法には、種々ありますが、一番宜いのは、先づ温湯中に遺達を加へて、其中へ脚を入れ、ブラシの剛い奴で、石鹼をつけながら良く洗つてやります。

そして今度は良く乾かしてやり、最後に水銀軟膏を、なすりつけてやれば、有効で御坐います。

そして治療が済みましたならば、成る可く草の茂つた所で遊ばせて置くやうにするので、草地が御坐いません様ならば、幾分濕氣のある敷藁等を敷いて、其處で遊ばせ、決して乾燥し過ぎた燻炭等の上に置かない様にするのであります。

尙又、草地の便宜が無い場合には、新鮮な綠植物を澤山與へる必要が有ります。

それから、飼料の變更も有効で御坐いまして、調理する時に用ひました湯に、數粒の瀉利鹽を加へて、飲ませますと、血液の更新に大變有効で、從つて病氣も早く治る事となるのであります。

それから症部の痲疲は、自然に脱落するに委せて置き、決して無理に剥ぎ取つてはなりません。若し無理にへがす時は、其の跡の皮膚は傷となつて、痛みを感じさせるものであります。

頭の毛が抜ける白癬

鶏は往々、頭の肉冠や肉髯に白い斑點が出来て、頭や頭の當りに擴がり、毛がポツ／＼と抜け初め、全身の羽色が悪くなる事が御坐います。

之れは白癬に罹りましたので、之を關はずに置きますと、斑點の處が痲皮となり、皮膚が外に裸出致し、最も甚だしいものになると、其の爲に衰弱して死んで仕舞ふ事が御坐います。

之れは不潔にして置きますと起るもので、傳染が速かたので、往々鶏の全群に及び、奈何にも手のつけれぬ事があります。

矢張り一種の寄生蟲が、原因となるので、人間や他の家畜に起るのと同じ様なものであります。此の病氣は急激に参りませんから、人は油斷を致し、遂に其の甚だしくなつてから、初めて騒ぎ出すのが普通であります。

輕症なものは、手當をしてやらなく共、自然に治つて行きますが、然し手當をしてやつたに越した事はないのです。

それで之を治しますのには、(患部へクレシンとか水銀軟膏等を付けてやれば、よいのであります。俗にシラクモと云ふて居りまして、良く普通の養鶏家は之れに苦むものであります。

卵を食べる食卵症

食卵症と云ふのは、卵を食べる病気で、御坐いまして、主として雌に多く此の病氣を見るのであります。

其の原因は、石灰質に乏しい飼料を與へたり致しまして、軟い卵を産み、之を壊したり、嗔の上からボタリと産み落して割つたり、其他種々の場合に、鶏が卵を食べて其の味を覺ひますが、其の原因なるのです。

一群中に一羽、斯う云ふ不行儀な鶏が居りますと、忽ち他の鶏へも其の感化を及ぼすものであります。

此の病氣に罹つた鶏が御坐いましたならば、直ちに之を他へ隔離致しまして、二三日は水も青菜も與へず、只穀類中に其穀を澤山入れ、之れ許りを與へて置けば、治ほるもので御坐います。

そして其の上に、運動を促進させて、絶えず身體を動かして居る様に仕向けるのであります。

か様にしても猶治りませぬ時には、卵の殻の中へ、挽割麥三分と唐辛一分の割に詰め込むで、巢の中に入れて置けば、食べると辛いので、之れに懲りて、大抵は卵を食べぬやうになります。

そして、又、鶏が卵を産みましたら、早速取り出して、巢箱の中へ卵を置かぬやうにせねばなりません。

これでも治らぬやうでしたら、其の鶏を他へ譲つて了ふとか、つぶしにして了ふ方が得策であります。

軟い卵を産む軟殼症

鶏は時々軟い、ブヨ／＼した卵を産みます。之れは軟殼病と云ふ病氣に罹つて居る爲で御坐います。

此の病氣の原因は、身體に脂肪が多過ぎる事に在るので、之を治療する最も良い方法は、鶏に卵殻を造る物質を充分に與へまして、軟かな飼料や、脂肪分の多い穀粉、譬へば米糠のやうなものを、

與へぬやうにするのであります。

そして積極的には、瀉利鹽を、一回に三十粒位の宛、熱湯中に溶かして、毎日之を飲ませ、又は強壯劑等を、隔日位に與へると、効能があります。

其の上に、大麥さか小麥とか云ふ粒餌許りで飼ひまして、朝食としては、カラスムギ、を一握りより少し少い位の宛、毎日食べさせ、絶えず新鮮な青菜を給して、時々生骨を碎へて與へます。そして運動させる事も必要でありますから、運動場には敷藁を敷いてやりまして、粒餌を撒いて與へ、運動を促進させてやれば、立所に此の病氣は全治致します。

— 夏 —

夏と病蟲害との關係

夏になりますと病蟲害が非常に多くなつて参ります。

これは獨り鶏に限らず、他の動物も同じ様なものであります。先づ夏の内でも入梅の頃が最も多いのであります。

入梅の時節には、梅雨が毎日の様に降り注いで居りますから、大體陰鬱で、其の上に到る所濕つばい爲に、兎角健康を害し易いので御坐います。

それに、殊に種々様な害蟲、寄生蟲等が發生致しまして、鶏を内と外とから苦める事になります。夫れ故夏、殊に入梅の時節は、養鶏家の厄期と致す所で、此の頃が一番鶏を飼ふのに面倒な時で御坐います。

入梅養鶏を無事に行り遂げる程の技倆が出来ましたら、最うそれで、養鶏では素人の域を脱したものと思ふても良いのであります。

夏に最も多い病氣と蟲害とは何かと申しますならば、重大なものでは、コレラ等があり、食滯病、赤痢等も良く起るもので、蟲害としては、ワクモが最も甚しいので御坐います。それ故此の時節には、良く飼料や、管理法に注意して、豫め病蟲害を防ぐ様に致さねばなりません。

三大厄病の二、コレラ——徴候——

此の病氣に罹りました鶏は必ず、他の鶏から獨り離れて居ります。又數羽一緒に發病致しますと、

同病相憐れむとでも申しませうか、數羽一群となつて、他の鶏から離れて居るもので御坐います、其の初期には、餌を食べない様になりまして、他の鶏と一緒に運動が出来なくなり、如何にも沈鬱さうな様子を致し、其の歩く時は、翼を兩側へ低く垂れて、ヨロ／＼した歩き方を致しまして、他の鶏からいつも離れて居ります。

そして頻りに水許り飲みまして、息づかひが苦しくなり、粥の様なドロ／＼した糞と白と交つた糞を致します。

病勢が次第に進むで参りますると、糞は水の様になり其の色は緑色を呈し、非常に厭な匂ひを放します。

そして體の羽根は逆立つやうになり、體温も昇つり、最後には盛に下痢を致し、全く昏睡状態に陥り、其の側に近づいて参りまして一向目を醒さずに、脚を縮めて地面へ寝て居ります。そして最後に斃れて仕舞ふので御坐いますが、中途から肉冠や肉髯の色が褪めて参り、非常に汚い色になります。

此の病氣は至つて急激に参りますもので、發病後僅か一日も經たずに死ぬ事が多いので御坐います。

て、非常に傳染致し易い爲に、一羽が此の病に罹つた所、五日も過ぎぬ内に、全群の鶏が残らず斃れて仕舞つた、等と云ふ怖ろしい實例が澤山御坐います。

三大厄病の二、コレラ——原因——

此の病氣は、主として飲食物から起ります。

他に病鶏が御坐いまして、夫れが傳染するので御坐います。若し一羽でも此の病氣に罹つた鶏が居りますると、夫れのした糞が、敷薬、食器、飲水器等について居りまして、それを他の鶏が啄む爲に、忽ち發病するので御坐います。

譬ひ自分の鶏小屋に、病鶏が御坐いませんでも、附近に此の病氣の流行して居る、養鶏場がありま

すると、種々な事から、此の病氣が移つて参ります。例へば、病氣の起つて居る養鶏場へ参り、運動場の土を踏むだ履物で、自分の鶏小屋へ這入つたり

しましても、良く傳染する事が御坐います。其他、風の爲に微菌が運ばれて來るゝか、病氣の流行して居る養鶏場から飼料を求めて來るとか、

その様な場合にも、得て病気が運むで参られ易いので御坐います。此の怖る可きコレラの直接原因となるものは、一種の病菌が体内に繁殖する事で御坐いまして、人間のコレラ菌のやうなもので御坐います。

それで此の病菌が鶏の体内に這入つてから、病状を現はします迄には、奈れ丈けの時間が掛るか
と申しますれば、極めて早いものになるに、二十時間、普通は二日か三日間で、遅いものは十日間位
るのであると、曰はれて居ります。

か様なわけで、病気は極めて早く参りますので、少し不注意に致して居りますれば、昨日迄極めて
健者で元気が良かったものが、今日になつて見るに、いつの間にか、知らない間に、コロリと斃
れて居る事が有ります。

夫れ故、附近に此の病気が流行し出しましたら、決して油断をせず、充分に注意を拂つてやらねば
なりません。

三大厄病の二、コレラ——豫防治療——

此の病気は傳染の非常に迅速なもので御坐いまして、一羽でも病鶏が出来ますと、仲々之を驅逐
するの面倒でありますから、先以て病気に罹らぬ様に、細心の注意を拂はねばなりません。

若しコレラが、何處かの養鶏場に發生した事を聞きましたならば、鶏小屋の大清潔法を行ひ、石灰
酸や石灰水を小屋の内外、運動場等に撒いて消毒致し、空氣の流通を良くし、濕氣を去りよく乾燥
するやうにするのであります。

そして水の中には、唐辛を少し入れてやるとか、硫酸鐵の様な鐵劑を混じてやるとか致しまして、
時々には野蒜の玉を小指の頭位に切つて食べさせ、運動を盛にさせて、食ひ過ぎをさせぬ様にす
るので御坐います。

殊に食器や飲水器の類は、極めて清潔にして置かねばなりません。
か様にして猶發病するものが御坐いましたら、其の激烈にならぬ内、僅かに其の徴候を現はした時
に、逸早く他へ病鶏を隔離し、其の後に小屋の内外、運動場等を、充分に消毒致します。

此の際に用ひる消毒劑は、石炭酸、石灰水、フォルマリン等で御坐います。
病鶏は極めて經症のものであるならば、明礬水を濃く作りまして、毎日盃に一つ位宛飲ませて

やるのでありますが、大抵は治す事が出来ませんから、之をつぶして、そして羽も残らぬ様に焼棄てます。

さもなければ、病原菌が残つて居りまして、再び鶏群に疫病させる原因となります。良く目撃する事がありますが、病鶏をつぶして、肉丈に食べまして、羽根や脚や、臟腑等を、其の邊に投げ棄て、置いた爲に、他の鶏が之を啄き、忽ちにして傳染致し、數多の鶏群が、僅か四五日で全滅に歸した等と云ふ、實例が到る處に御坐います。それ故、矢張り吾々人間のコレラに對すると同様な用心を拂はねばならぬのであります。

胃袋が膨れる食滯病

鶏が時々、素囊即ち俗に云ふ胃袋が膨れて、之れを握つて見るとカチ／＼する程硬くなり、身體が疲れた様子をしまして、餘り餌も食べず、何となく元氣がなく、肉冠や肉髯の色も、次第に褪せて行く様な事が御坐いましたら、それは食滯病に罹つた證據で御坐います。そして此の場合には、始終苦しうに、頸を伸したり縮めたり致して居りまして、次第に餌も食べ

る事が出来なくなり衰へて行くものであります。

之れが起りますのは、食物を食へ過ぎたり、炭の大きな片を呑んだり、又は薬屑とか、繊維の多い雜草等を食へまして、食道の穴を塞ぎ、外から這入つて行つた粒餌などが濕り氣を受けて膨れますので、胃袋が膨れ硬まるので御坐います。

そして素囊には澤山餌が詰め込むで係らず、食道の穴が塞つて居る爲に、食物が胃の中に這入らず、鶏は非常に苦しむので御坐います。主に若い鶏とか、又は卵を産んで居る雌に多く起る病氣で御坐います。

此の病氣に罹りましたならば、軽い間なら、油の様なものを飲ませまして、胃袋を靜かに良く揉みやわらけてやりまして、それから鶏を倒まに致し、胃袋の中の食物を吐き出させてやるのであります。若し吐き出す事が出来なければ、其の儘温い靜かな場所に置きまして、半日位何も食べさせず、温ま湯に唐辛を混ぜて飲ませ、其の上炭酸マクネシアを温湯に加へて飲ませ、柔かに揉むでやり、其の儘にして置いて、二三時間も経ちましたならば、其の糞を調べて見るのであります。か様にすれば大抵は、治ほるものであります。

然し硝子の片が這入つたとか、木炭の大きな片が這入つたとかして、奈何しても以上の方法で治ほす事が出来ませぬ場合には、素糞を切開しなればなりません。

それには先づ、クロ、ホルムを吸入させて魔酔し、素糞の上部を八分位メスカ剃刀で縦に切り開き、中に這入つて居る、硝子片や木炭片及び色々な食物を綺麗に除きまして、其の後内部を石炭酸水で消毒し、再び傷口を縫ひ合はせ、重曹を僅か與へた儘、約一日間絶食させて置きます。

手術後一日も経ちましたならば、極く軟かな餌を與へ、よく創口が治ほる迄は、餘り水を飲ませぬやうにして、青菜等を多く食べさせます。

か様に致せば、一週間位も経つと充分全治するもので御坐います。

良く起こる消化不良

鶏が消化不良に罹つた場合には、よく分るもので、此の病氣は殊に多いものであります。

先づ餌を食べる事が少くなり、いかにも弱々しく元氣を失ひ、肉冠や肉髯の色も悪くなりまして、次第々々に瘠せ衰へて行くので御坐います。

これは鶏が食ひ過ぎをしたり、今迄粗悪な糞とか又は麥糠の様なもの許りを與へて居つて、急に肉類とか魚類等の御馳走をするとか、又は馴れない食物を急に與へると、此の病氣に罹ります。

又悪い水とか腐つた食物を與へた場合にも起るもので御坐いまして、其の上刺戟物を澤山與へ過ぎるのも亦、一つの原因と思はれます。

これは、過食したり刺戟物を取り過ぎたり、又は馴れぬ餌を食べると、之を消化するのに多量の胃液を分泌致し、胃を使い過ぎるから、此の病氣が起るのであります。

之を治療しますのには、なるべくアツサリした消化し易い餌を與へ、水を與へるのを節しまして、青菜等の新鮮なものを多く與へてやります。

そして、大黃根末を〇、三〇グラム位それと重曹を〇、五九グラムを水二合に解いたものを加へて三日間毎日盃に二つづ、飲ませてやりますれば、大抵治つて仕舞ひます。

此の病氣は別段傳染するものでは御坐いませぬが、よく度々起る病でありますから、豫め飼料の配合や其の變更を急激にせず、常に平均して食物を與へ、無暗に食ひ過ぎたりするのを防ぎますならば、良く此の病氣を豫防する事が出来るものであります。

産卵を邪魔する下痢

今迄産卵を續けて居た鶏が、急に卵を産まなくなり、水の様な糞を致し、次第に餌も食べぬ様になつて、無暗に水許り飲むで居りまして、それが次第に瘠せ衰へて行く事が御坐います。之は下痢に罹つたのです。

此の原因は、暴風雨の時雨風に曝したり、悪い餌を與へたり又は不潔な水を飲ませたりするからで御坐います。

此の病氣に罹りますと、折角澤山産むで居た卵も、急に産まなくなりまして、經濟上から申しても全く損であります故、豫め之を防ぐ様に致し、殊に産卵中の鶏に對しては、猶更細心の注意を拂つてやりませぬと、損が行くものであります。

之を豫防致しますには、先づ成る可く暴風雨の時等は、外に出さず、温度の激變に遭はせぬ様に致し、食器、飲水器等を清潔にして、滋養分のある餌を與へ、水氣のある綠植物を與へ過ぎたりせぬ様に注意するので御坐います。

2

若し下痢に罹りましたならば、温度の變化の少い静かな所に入れ、水や綠植物の分量を減らし、粒餌などを與へまして、濕氣を防いでやりますと、大抵は治つて仕舞ひます。

醫藥としては飲水の中へコロダインを二三滴落して與へますれば、良いので、か様に致すと同時に肛門の周圍を常に綺麗に拭き取つてやり、不潔になるのを防ぐのであります。時によると、其の軟毛を剪で切り取つてやる事も御坐います。

最も怖るべき赤痢病

前に述べました下痢等と同じ様な徴候を現はしまして、次第々々に元氣を失ひ、獨り離れて小屋の隅などに離れて佇み又は頸を縮め、尾や翼をダラシなく垂れ下け、時々脚を伸ばして見たりしては眼を凝つて閉りまして、ウツラ／＼して居るものが御坐いましたならば、之れは被の怖る可き赤痢病に罹つたのであります。

此の病氣に罹ると、肉冠や肉髯は色が褪せて、汚くなり、初めは赤黄色の斑點や筋の付いた糞を致しますが、病勢が重く進みますと、灰色に黄色を混ぜた粘々した糞に、糸の様な細長い物を混ぜて

排泄致します。

そして最後には、衰れな程瘠せ衰へ、歩く事も出来なくなつて、死んで仕舞ふので御坐います。此の病氣の原因は、不良な飼料不潔な飲水等を與へ、濕つた陰氣な所へ置くとか、天氣の悪い日に外に出して、冷たひ雨に、ビシヨ濡にさせるとか、温度の變化に度々當てると、良く起り勝ちのものでありまして、又人間の赤痢病が流行して居る時等に患者の排泄物が混つて居る水等を與へると發病するので御坐います。

矢張り一種の病原菌が、食物と一緒に體內に這入りまして、腸の内部に寄生するのが其の原因なので御坐います。

これは傳染性が強く、一羽が罹れば必ず、他の鶏にも移り、發病しましてから、十日も過ぎると、バタ／＼斃れます。

此の病氣に罹つて死むだ鶏の體內には、病原菌が未だ生活して居りますから決して食べてはならぬのであります。

兎に角怖ろしい病氣である故、先以て其の發生を防がねばなりません。

1. それには、飲料水や飼料によく注意し、人間の赤痢病が流行して居る時には、殊更油断なく用心して、鶏舎の内外を石灰水で消毒するに限りませぬ。

2. 若し病鶏が出来ましたならば、早速他へ隔離致しまして鶏小屋の清潔法を斷行致し、石炭酸と石灰水で充分に消毒せねばなりません。

3. 病鶏は、色々治療を致しましても、衰弱が甚しいものであります故、寧ろ思ひ切つて殺して仕舞ひ、之を焼棄して、病菌を撲滅した方が一番宜ろしのであります。

若し亦、非常に輕症なものでありましたら、下痢の時と同じ様な醫藥を用ひ、之れに興奮劑として葡萄酒とかブランデー等を少量飲ませるも、効能がある様で御坐います。

然し兎に角怖るべき病氣で、一羽や二羽の鶏には換へられませぬから焼き棄て、病原を根絶した方が得策と思ひます。

分り憎い細菌性腸炎病

此の病氣は鶏の外面に影響が現はれて來ませんから、鳥渡分り憎いものでありまして、之等の寄生

蟲が非常に多くなつて、初めて下痢を起したり又は衰弱したりしますので、初めて分るやうなもので御坐います。

それで先づ糞蟲から先に申しますと、此の蟲が初め鶏に僅か寄生して居る時は、鶏は別段苦と致しません、次第に増加して夥しく寄生致しますと、鶏は不活潑になりまして、羽毛が逆立ち食慾が減退しますから、従つて瘠せて参ります。

肉冠や肉髯は、貧血して色が褪せ、其の上必ず下痢を起すもので、其の糞便中には、血液を混するものであります。

そして鶏は衰弱して行くにも拘らず、盛に水を飲むもので御坐います。か様に致して居る内に、全く歩くのを好まなくなり、馬鹿に弱りまして遂に斃れるのです。

時によると、寄生蟲の刺戟の爲に、脳症状を呈し、痙攣を發して死するものであります。

一體糞蟲は御承知の如く、頭が小さく、尾の方が大きいものであります。白い細長い多くの片節から出来て居り、其の各片節には雌雄の兩生殖器がありまして、各々一個の獨立した蟲體を成すもので御坐います。

頭部には鈎と吸盤とがありまして、鷹の粘膜に固く食ひ付く役目を致します。

尾の方の、發育を遂げ大きくなりました片節には、卵が一杯に充實して居りまして、夫れが自然に切れて糞と共に排出されます。

そして排出された卵は、一旦中間宿主の體內で、或程度まで發育し、再び鶏に寄生するのでありますから、診断を下す場合には、糞の検査をしなければなりません。

糞の中に片節があれば、鷹には糞蟲が寄生して居る事が明かである許りでなく、一羽が寄生蟲を持つて居れば、他の鶏も持つて居る事が想像されるのであります。

此の條蟲が鶏に寄生致しましたならば、治療法として驅蟲劑を飲ませるので御坐います。驅蟲劑としては、一般に澱粉又は脂肪とを混ぜまして、之を丸藥として與へて居ります。

又食物と混じて與へても効能が御坐います。

鶏には檳榔子末を一から三グラム許り、夫々身體の大きさによつて與へます。其他に、綿馬根末二グラム許り與へましても有効で御坐いますが、兎に角、驅蟲劑を與へる時は、先づ與へる前半日位斷食させて、それから與へた方が効能が一層著しいのであります。

で罹病してからは勿論、罹病せぬ前にも、平生清潔法に注意致し、病鶏は早速隔離致し、糞等は焼棄して、他へ傳染する事を豫防するのが肝要で御坐います。

分り憎い終蟲蛔蟲病 二

鶏の蛔蟲は非常に多いものでありまして、何の症状もない健康な鶏でも解剖して見ますと、屢々本寄生蟲を發見することがあります。

此の蟲は雌雄と同じ様な、症状を呈するもので御坐いまして、雨が多い年とか、濕氣の多い處には盛んに起るもので御坐います。

此の蟲は雌と雄とが、別々の蟲でありまして、白く細長い、人に寄生する種類などの、半分位の大きさのものであります。

此の蟲が寄生致しましたならば、矢張り驅蟲劑を飲ませ、終蟲の場合と大體同じ様な手當てをすればよいので御坐います。

驅蟲劑としましては、檳榔子末を二から三グラム。サントニン^oを〇・〇二から〇・〇四グラム。を

丸薬とか食物に混ぜて與へますと、効能があります。

それから又、甘禾を〇・〇一から〇・〇二グラム位を、下劑として用ひましても、此の蟲を驅逐する事が出来ます。

此の蟲も矢張り他の鶏へ傳染寄生致しますから、發生したと思ひましたならば、早速他へ隔離して治療せねばなりません。

要するに之等の寄生蟲の病氣は、糞から移る事が最も多いのであります故、糞掃除は餘程氣をつけて、充分にやらねばなりません。

頑敵ワクモの撃退法 一

鶏にワクモが發生致しますと、鶏は其の鮮血を吸はれまして、其の吸はれた所が赤い斑となり、

鶏は其の爲に非常に苦められ、漸次に貧血となつて衰弱して參り、肉冠の色は黄白色となります

そして産卵して居る鶏は、卵を産まなくなるものです。それが更に進みますと、人間の身體迄を刺す様になり、鶏は死ぬ、人間は痒くて仕やうが無いと云ふ様な、手のつけられぬ破目に陥り

これが湧いた湧かぬかを見るのには、夜間に鶏小屋を巡廻して見ますと、無数のワクモが、壁と云はず、棲架と云はず、鶏の身體と云はず、一面に恰も米糠を散らした様に付いて居るもので御坐います。

これに付て面白い話が御坐います。問題が側道へ這入るやうであります。鳥渡申し上げます。ある田舎の小さな町に、女郎屋が御坐いました。此處の息子さんが非常に鶏が好きなので、店の軒下を利用致しまして、其處を鶏舎として養鶏を初めました。

先づ初めた當座は何事もなく無事で御坐いましたが、春も過ぎ入梅も過ぎて、ソロ／＼暑くなりかける頃の事で御坐います。

晩の事、平生の様に所謂粹人なる者か、それ共野暮助だか其處は分りませんが、兎に角此の女郎屋へ登樓に及んだ人が御坐いました。それで一夜の快を貪ぼる心組であつた迄は、誠に結構な話で御坐いましたが、扱て夜も遅くなりますと、意外にも當のオイランなる者が、餘り顔を見せませず兎角他の部屋へ許り参つて居り、本人極めて不氣嫌で、例の「来るか疲れ」とか申すいら／＼心で

終夜まんじりとも致さず、「何方向いても夜着の袖」など、乙な唄をうたつたか奈うかそこは不明であります。兎に角悲惨な境遇に陥つて居りました。

すると當の来る可き筈のオイランは参らず、思ひも依らぬワクモなる無粹者が忍び込みまして、腹さ云はず手足と云はず、顔から爪の先迄一面にチクリ／＼ミ總攻撃を始めたので御坐います。これには流石の粹人も耐りかねましたと見えて、先程からのムシヤクシヤ腹も幾分手助け致したので御坐います。大聲に怒鳴り立て、番頭を呼び付けまして、現状を見せまると、成る程居たは／＼粉を撒いた様に、蒲團やら夜着やらへワクモがウヂ／＼して居りました。

それと同時に隣の部屋、向ひの部屋、四方八方から、痒いとか痛いとか様々な文句が出て参りました。番頭も平身低頭平謝りに詫び入つた上に、遊興費も或程度迄割引するを餘儀なくされたそうので後で人々に話して聞かせ大笑ひであつたとの事で御坐います。

これは、軒の下に鶏舎を設けたので、其處に發生したワクモが、板や柱や壁の隙間から、各部屋部屋へ侵入したもので、先づワクモは、か様に人體をも襲撃するものなので御坐います。

頑敵ワクモの撃退法 二

ワクモが発生するのを豫防するのは、小屋の内外全部にコールドタールを塗り、時々クレンシンを撒き、砂浴場には除蟲菊粉だとか、硫黄華等を混ぜて置いてやる事は、前にも申上げた通りで御坐います。それで、一旦此のワクモが湧いたならば、之を奈何して撃退するか、夫れには種々な方法が御坐います。

一體此のワクモは、主に棲り木こか産卵箱、壁、柱等の隙に日中は匿れて居りまして、夜になりますと、のこ／＼這ひ出しまして、鶏の鮮血を吸ひ取るものでありますから、之を驅除するには、夜間を選む方が良いのであります。

それで、ワクモが湧きましたならば、棲架は全部竹と致し、其の節々は皆打抜きまして、上の方に一列に節と節との間へ三個位宛宛小穴を開けて置きます。

か様に致して置きますと、ワクモはどや／＼と襲撃して参り、夜の明ける頃迄には、血に膨れて赤黒くなり、まるで胡麻のやうになるので御坐います。

そして夜明け頃に、燈火を以て鶏小屋の内へ這入つて行きますと、ワクモは勿驚致しまして逃げ逃ひ、計略があるとは氣がつかず、前に設けて置いた竹の穴へ全部這ひ込みますから、之を棲架のまま、取り外して、外に持つて参り、眞直に縦にして石の上等で、コツ／＼と四五回も竹の先を衝けば、竹の中から團子の様になつてワクモが、轉ろけ出ます。

夫れへ逸早く石油をかけ、火をつけて焼殺して仕舞ふのであります。か様な事を毎日繰り返へして行ひますれば、大抵は驅除する事が出来ます。

そして、か様に致しました上、更に、小屋の内外、残る隙間もなく、クレシン（三十倍）と石油を混じた液體を撒きかけ、其の後へコールドタールを一面に塗りつめるので御坐います。そして必ず糞等も綺麗に掃除致し、常に清潔に保つやうにしてやれば、再び發生する恐れは、なくなるので御坐います。

それから鶏にも除蟲菊粉を塗り付けるとか、又は硫黄華をなすり込むで、皮膚に充分に附着する様に揉むでやらねばなりません。

又フォルマリンや揮發油を、時々皮膚に塗つてやれば、有効なもので御坐います。

此の害虫は、極めて繁殖力が強いものでありまして、一寸の間でも気が付かずに放任かして置きましたら、それこそ大變、タツタ忽ちの間に鶏舎全面に亘つて蔓延するもので御坐います。とに角クモは養鶏家に取つて、最も怖るべき害を與へ、之が驅除法も仲々面倒でありますから、之を發生させぬ様に、前以て豫防するのが、一番肝心な事で御坐います。

羽虱と羽蛆の驅逐法

鶏が時々羽毛を立てまして、頻りに嘴や爪を以て、頭や背中を啄き、又は脚を以て翼を扱いたり掻いたり、いかにも煩るささうな様子をします。これは羽虱や羽蛆が湧いた證據で、頭の毛等を檢べて見ますと此の蟲が居ります。それで之等の寄生蟲を豫防致しますのには、第一に鶏舎内を清潔にする事でありまして、第二番目には、良く砂浴をさせる事で、砂浴場の細土中には硫黄華とか除蟲菊の粉末を混じてやれば、大いに豫防の効果が御坐います。羽虱は羽毛の間に寄生して居るものでありますから、全身の羽毛を、逆さに撫で、新しい除蟲

菊の粉末をつけてやれば、譬ひ奈なに澤山繁殖して居た虱でも、只の一回丈で、全く驅除して仕舞ふ事が出来ます。

羽蛆と云ふのは、羽の裏面に附着して居りまして、丁度羽裏に粉末を塗り付けた様な、外觀を呈して居ります。

之を驅除するには、揮發油を塗り付けてやるのが宜ろしいです。

それから其の他に、ホルマリン、石炭酸、或は石油等を塗りつけてやりまして、その後石鹼を用ひ、温湯で良く洗つてやります。

此の場合に洗つてやる事を忘れまると、鶏が羽を嘴で扱く時に、夫等の藥品が口中に這入つて害を爲す事がありますから、注意せねばなりません。

なるべくならば、揮發油を用ひるが良いのでありまして、之れなれば、塗りつけた後、直ちに蒸發して仕舞ひますから、洗つてやる面倒が除ける事になるのであります。

秋と病蟲害との關係

秋は夏の後を受けて冬に向ふ、暑さより寒さに移る界目の時節で御坐いまして、氣温の變動も比較的多く、且つ其の前半期は残暑と申す位に酷熱であり、其の後半は晩秋とて晝夜の温さが極めて相違致す、即ち冷濕の状態にある事が多いので御坐いますから、従つて病氣も亦仲々多いのであります。

殊に此の頃は、鶏が盛に卵を産む時節でもあれば、又換羽等も致し、身體の具合が、兎角害され易いので、餘程良く注意せぬと、思はぬ失敗を招ぐものであります。

又屢々暴風雨等も襲來致しまして、鶏の健康を害したり、或は器械的に鶏小屋等を破壊致すとか、出水致して鶏に非常な冷濕を與へたりしますから、猶更鶏は病氣に罹り易くなるもので御坐います。

故に、秋は、梅雨の頃とは異なり、利益を多く擧げる目的の方面から、注意を怠らず、病害の豫防

に注意をせねばならぬのであります。

蚊が媒介する鶏痘

鶏の頭の毛の無い處、即ち嘴の根元の周圍、肉冠、肉髯、鼻孔、耳朶等に、粟粒程のブツ／＼が出来、初めは小さな圓い少し硬く長みを帯びました、恰も眞珠の様に灰白色で光澤がありますけれども、時期が進みまして一週間も経ちますと、其の粟粒の中央が少しく凹むで參り、之れが熱しますると柔かになり破れ易く、中から厭な匂ひのする汚い膿汁がออกมาして、輕いものになると其處が痂皮となつて全治しますが、重いものになりますと、初め頭の部分から段々後肢、肛門の周圍の羽毛の少い處まで、全身を冒す様になり、病鶏は其の爲に元氣を失ひ、羽毛を逆立て、甚だしく瘡せて、稀には下痢したりして、遂に死ぬ様な事が御坐います。

之は即ち鶏痘と云ふ病氣に罹つたので御坐います。

此の病氣は、暴風雨の時に外に出して置きまして、雨に濡れたりして身體を冷やした時、又は氣候が不順で御坐いまして、鶏小屋が何となく濕つぽく、そして夜などは空氣の流通を悪くして居るに

係らず、時々隙間から漏れて来る夜風に當てたりした時に、之が原因となつて起こるものでありますが、其の最も多いのは、以上の様な境遇に時々遭はせて置いて、そして夜分蚊に刺される場合で御坐います。

夏の蚊は夫れ程ではありませんが、此の秋の蚊は非常に悪い奴で御坐いまして鶏痘に限らず、様々な病氣の傳染を媒介するので御坐います。

即ち何處かに此の病氣に罹つた鶏があるに致しますれば、其の病鶏の肉冠や肉髯を刺して、其處から血液と共に病菌を吸ひ取り、更に飛んで来て此方の小屋に居る健全な鶏の身へ留まり、之れを刺す時に、件の病菌を植付けるのであります。

此の病菌は果して何と云ふものであるか、未だに學者の研究は積まれてありませぬが、兎に角一種の病菌が此の病氣の原因を爲す事だけは、分つて居るので御坐います。

それで此の病氣を豫防致しますには、先づ鶏舎及び鶏群の衛生に良く注意致しまして、特に不潔になり易い埽、飲食器具を時々消毒し、日光によく晒す様に致しまして、汚物などは始末するやうにするがよいのであります。

又新しく買入れた鶏などは、二三週間位は、在來のものと別居させるやうにした方が、安全であります。

病氣が発生致しましたら、病鶏を早速隔離して、汚染した器具は惜まず焼却する事を、お勧め致します。

又病鶏には、其の患部の治療をせねばならぬのですが、其の方法には、種々御坐います。

次に其の二三例を挙げますと、沃土丁幾、過クロール鐵液を一日二三回塗りますと、輕症のものなら大抵全治致します。

又石炭酸五、グリセリン一〇〇、水一〇〇、を合劑として用ひ、又石炭酸又はクレタリン一に豚脂一〇—二〇、を加へて作つた軟膏も効能があります。

勿論クレタリン又は石炭酸の五十倍、昇汞の千倍溶液を以て洗つてやるのも宜いのであります。若し下痢がありましたならば、タンニン又は硫酸鐵の五十倍液を半グラムか一グラムを内服させます。

其の他口腔、咽喉頭、眼等の療法は、ジフテリアと同じ方法で良いのであります。

ぐるく廻る暈倒症

鶏が頻りにぐるく廻つて見たり、或は駆け歩いたり、又は舞ひ上がらうとする様子を致しまして、其の甚だしいものは、地面へ倒れて感覺を失つて仕舞つたり、又は突然死んで仕舞つたり致します。

これは即ち暈倒症に罹つたので御坐います。

此の病氣の起ります原因は、豌豆とか蠶豆とか其の他營養分が餘りに多い飼料を與へ過ぎると、起るもので、其の爲に頭蓋腔内に血液が鬱積致しますので、か様な症状を呈します。

此の病氣は突然に参りますから、手當ての間にはぬ事が多いものであります。若し輕症のものでありますして、未だ死なぬやうなものならば、頭を氷等で冷してやり、瀉利鹽を一五グラム與へ涼しい所に置いてやり、決して滋養分の多い餌とか、大豆のかす、玉蜀黍等を與へてはなりません。

突然に斃れる腦卒中

昨日迄は非常に丈夫であつた鶏が、突然地上に倒れて死んだり又は全く知覺を失つたりする事が御坐います。

これは腦卒中に罹つたのであります。

此の病氣は、暈倒症等と同じ様に、滋養分に富むだ飼料例へば、大豆とか玉蜀黍等を多量に食べた爲でありまして、頭蓋腔内の血管が破れ、血液が流れ出して腦髓を壓迫するのが原因となつて居ります。

此の病氣も亦極めて突急に参りますので、殆んど手がつけられませぬが、若し輕いもので知覺を失ひかけた様な場合ならば、早速切れる剃等で翼の下に在る大靜脈を切り割つてやりまして、一方の方を押して血を澤山出してやれば治ほるもので御坐います。

そして其の傷口はフォルマリン等で良く消毒してやり、病菌が侵入するのを防ぎます。そして病鶏は、なるべく靜かな場所へ移しまして、餘り身體を動かさせぬやうにして置き、綠餌と

か大根の煮たものとか、兎に角極く淡泊な餌を與へてやります。滋養分の多い飼料は、手術後四五日は與へぬやうにせぬといけません。

歩けなくなる麻痺症

鶏は時々此の麻痺症に罹つて動けなくなります。

即ち運動神経が作かなくなりまして、筋がつまつて仕舞ひ動く事が出来なくなり、次第に瘠せ衰へて参り、遂に死んで仕舞ふものであります。

此の原因は、運動神経に故障が出来る事で、一般に脊髄病に罹つたものは良く此の病氣を起します又餘り刺戟の強い飼料を多く與へ過ぎますと、得て此の病氣を起し勝なもので御坐います。

それで此の病氣に罹つたものが御坐いましたならば、蕃椒丁幾を内薬として飲ませまして、アルニコチンキとアルコールミを混ぜ合はせたものを、兩脚に塗つてやると治ほります。

然し重い者になると、容易に治ほりませぬから、之等はつぶして了つた方が良いのであります。

脚が硬張るリウマチス

鶏がリウマチスに罹りますと、脚の關節が硬張りまして、自由に運動出来なくなりまして、他の鶏と一緒に置きますと競争に負けて、餌も多く食べられせんから、次第に衰弱して参ります。

此の病氣は秋冷の時節に、寒さにあてたり、又は雨あがりに濕つた地面を歩かせたりしますと、起るもので御坐います。それから又温かだつたのが急に寒さに變つたりしても起るもので、秋籮を育てます時にも良く之に罹るものであります。

之れを治ほしますには、冷い濕つばい空氣のじめくする所から、空氣の流通が良く、温かい處に移しまして、脚を温湯に浸してやり、數分間過ぎてから取り出し、水分をよく拭ひ去つて、クロ、ホルムを擦り入れましたフランネルを以て縛つてやります。

そして亞片〇、三〇グラムを一週間に五回位飲ませ、なる可く滋養分のある餌を食へさせまして其の上に毎日一回宛麥酒を飲ませます。よくなるもので御坐います。

脚の節が腫れる痛風

鶏の脚の節又は趾の節が腫れ上りまして、初めの間は其處を頻りに痛痒ゆさうに致して居ります。が、次第に大きくなり脚を自由に運ぶ事も出来ないやうになつて参り、遂には起つて歩くことすら出来なくなる事があります。

之れは痛風に罹つた證據で御坐いまして、此の爲めに身體は次第に衰弱し、烈しく下痢を起し、遂に死んで仕舞ひます。

之れは矢張り、冷たくじめ／＼した所に永く飼つて置くこと起りますもので、此の病氣に罹りましたならば、病鶏を温い室に移してやり、甘黍を〇、〇六グラム夜中に飲ませまして出来るだけ身體を温かにしてやらねばなりません。

それから又、腫れた所に膿を持つて居る様で御坐いましたならば、其處を切開して膿汁を出してやり、其のあとを石炭酸で良く消毒してやらねばなりません。

蚊とブヨとの撃退法

夏から秋にかけて、蚊とブヨが夜になると、鶏小屋を攻撃致しまして、鶏の生血を吸ふて、大なる害を與ふるもので御坐います。

夜中に鶏が蚊やブヨに襲はれますと、終夜一睡もせぬ位に、始終カタンコト／＼と、頻りに音を立て、は、彼等と戦つて居るのであります。

それで此の蚊やブヨに刺されたあとを見ますと、其の部分が腫れ上つて居ります。

此の害の恐る可き事は、第一に鶏痘の傳染をする事は前にも申した通りであります。又往々發熱して衰弱し種々な病氣を起す事が御坐います。

殊に秋の蚊とブヨとは大害を與ふるもので御坐いますから、是非其之れを撃退せねばなりません。それで撃退策として、今迄は鶏が留つて居る棲架の上から蚊帳を吊つたものであります。之れも確に一方法であるには違ひありません。共ブヨの様なものには、蚊帳の目を潜つて内へ這入りま

すから何の役にも立たぬ事が御坐います。夫れ故、寧ろ蚊取り渦巻線香十時間持ちのものを、毎日

夕方から小屋の内へ點じまして、大いに部屋の内を燻してやるのであります。之れは最も鶏體に安全で且つ無害で、其の上蚊ブヨの撃退には特效のあるもので御坐います。

— 冬 —

冬と病蟲害との關係

鶏は元來、氣温が變はる事を非常に嫌ひますし、そして又身體の爲にも亦宜ろしくないのであります。

又寒い時には、羽毛を以て之を防ぐ他には、別段の準備が御坐いませんから、餘り寒い氣候には大變苦しむもので御坐います。

處が冬になりますと、温度が非常に低くなつて嚴寒の場合には外には氷が張る、内には霜が降ると云ふ有様で御坐いますから、従つてこんなに寒い時は、鶏は自分で其の寒さを防ぐ事が出来なくなります。

又晝間と夜分とは、晴天の日などには、温度が著しく違ひますので、晝間に日光の下でひなたぼ

つこ等を致し夜急に寒氣に觸れると、直ぐに病氣になるのであります。

又稀に運動場等へ出て遊びまして、知らずく雪溶けの土等を踏む事が御坐いまして、又病氣の原となるのであります。

か様に冬は寒い爲に、病氣に罹る事が多い許りではなく、よく狭い所に入れて置かれ、充分に運動が出来ませんので、健康を弱らせ病氣に罹り易くさせるのです。

それで先づ最も多いのは、呼吸病でありまして、次に種々な病氣が起つて参ります。

それ故冬はなるべく温かにしてやり、急に氣温の變化に遇はせぬやう注意ねばなりません。

三大厄病の三、チフテリー (徴候)

鶏が餘り運動をせない様になりまして元氣が悪く、之れを捕へましても逃げ様とも致さず、常に息急はしく苦し相にして居り、羽毛の光澤が鈍つて参りましたら、これはチフテリーに罹つた證據なので御坐います。

此の病氣は最初に、鼻腔とか口腔とか咽喉等の粘膜炎を犯しまして、次に氣道とか消化器とかへ迄擴

がつて参るものであります。

初め其の犯された諸粘膜は、ドロ／＼した粘膜が大變に多くなりまして、次に其の粘膜の上に灰色を帯びた、粟粒程のボチ／＼した偽膜が出来ます。

此の偽膜は初めは非常に薄いものでありますが、時間が経つに従ひまして、段々厚くなり硬くなつて、其の表面が黄色な不潔い様子を現はす様になります。

そして一種特別な氣持の悪い息氣を放します。

此の偽膜を剥がして見ますと、其の跡は眞赤になつて居るもので御坐います。

若し鼻の中が犯されました場合には、鼻孔から水の様な液を垂らし、段々病氣が進むに従ひ、一寸外の方から押へて見ましても、直ぐに穢い臭ひ粘液を漏らすものであります。

それに多くは躬き聲を出すやうになり、噴嚏します時には、鼻の孔がつまつて、呼吸が困難になる事が、御坐います。

それから病氣が眼の方に出来まると、眼瞼が腫れ上り其の内面に、膿汁や又は非常に濃い灰色をしたバタ見度ひなかたまりが溜りまして、重い者になると、眼を全く閉じて仕舞ひ、開く事が出来

なくなり、最後には盲目になつて仕舞ひます。

又口の中や咽喉の所に出来まると、食物を食べる事も、又譬ひ食へて見ましても、嚙み下す事が出来なくなりまして、呼吸は困難になりゼイ／＼した妙な聲を立てるもので御坐います。

それで、此の病氣に罹りましても、始めは一寸丈夫な鶏と見分けが付きませぬ。然し病氣が重くなつて行くに従ひ、様子が變つて参るのであります。

食欲も進まぬやうになり、従つて身體も瘠せ衰へ、今迄産むで居つた卵も産まなくなりまして、肉冠や肉髯の血色が非常に悪くなつて参ります。

そして、羽毛は逆立ちになりまして、常に頭を翼の間へつき込むで居り、元氣がなく、獨り他の鶏から離れて佇むで居る事が多いので御坐います。

で此の病氣の潜伏期は大抵二三日、時としては二三週間で、又發病してからは、急性なものは四五日で斃れ、さうでなくて慢性のものは、數週間とか二三ヶ月此の病氣に罹つて居り、遂に死ぬのであります。多くは急に來る事が少く、ソロ／＼弱つて行くもので御坐います。

三大厄病の三、チフテリー (原因)

鶏が此の病氣に罹りますのは、急に寒い所に移されたり或は又、か様にせずとも氣候が急に寒くなつたり、温くなつたり、日中太陽の温さを受けて、夜急に寒い空氣に觸れたりすると起るもので其他雪溶けのした地面を歩くとか、雨の降つてる中に濡れて餌を漁つて居たりすると、身體が冷えそれが直ぐに温かな小屋の中へ這入り急激に温かさを受けたりするものも、亦此の病氣を惹起す事となるので御坐います。
又夏の熱さの烈しい蒸されるやうな夜に、朝方になつて急に冷えたりすると、同じく此の病氣に罹ります。

要するに暑く共寒く共、何づれの時節でも、寒暖の激變に會ひ、そして空氣の流通が悪く、濕つばい場合等に多く起り勝ちなもので御坐います。

そして先づ一才鶏の若いのに罹る事が多く御坐いまして、二ケ年も経つた鶏は稀でありますがこの等の外界の變化に慣れ比較的抵抗力の強くなつた鶏でありまして、廣い運動場に自由に飼つて

居たものを、急に買ひ入れまして、之を狭い柵内に飼ひますと、良く此の病氣に罹るものであります。

これは矢張り烈しい傳染性を持つて居る病氣でありまして、一種の病原菌が體內に寄生致しますのが、其の原因であると云はれて居ります。

三大厄病の三、チフテリー (豫防治療)

兎に角此の病氣も亦非常に怖る可きものでありますから、前以て病氣が起らぬ様に、豫防をするのが肝心です。

それで之れを豫防致しますには、夏でありますならば、鶏小屋が蒸されないうやうに空氣の流通を良くしてやり、冬でありますならば、育雛器等が餘り蒸熱を受けぬ事に氣を付けて、そして温度の激變する事等を良く注意してやればよいのであります。

そして此の病氣は、鼻の内、口の中、眼等すべて犯された部分から出る粘液等に含まれて居るものでありますから、之等が付いて汚れた食器とか、飲水器から他の健康な鶏が、餌を食べたり水を飲

むだり致しますと、直ぐに傳染するのであります。それ故に、若し疑はしい病鶏が出来ましたならば、直ちに隔離致しまして傳染せぬやうに、別に飼つてやらねばならぬので御坐います。其の他の豫防法等は、コレラの場合と大體似て居りますから、夫れをお用ひになれば宜ろしう御坐います。

で、此の病氣は仲々頑固で御坐いますして、一旦病氣に罹り衰弱しましたものは、回復する事が困難で御坐いますから、一般に早くつぶして仕舞ひ、病根を絶やした方が得策で、一方鶏小屋の方は、充分に消毒清潔法を行ふので御坐います。

又此の病氣は一旦侵入して参りますと、一回の消毒法や清潔法では安心が出来ませんから、二三次回繰り返へして行はねばなりません。

又鶏などから人間に傳染したりする事も往々御坐います故、死體は焼き棄て、仕舞ひ、決してお子様方にいぢらせてはならぬので御坐います。病鶏を治療致しますのには、なる可く乾燥した日當りの良い處に鶏を置きまして、滋養のある餌

を食へさせ、今日に於ては、先づ其の犯されて居る、局所々々を治療するより他に、別段新しい方法も御坐いません。

若し口や鼻が犯されて居ります時には、脱脂綿を細い棒の先きに巻き付けまして、軟く粘液を拭き取つてやり、其のあとへ、一パーセントの硝酸銀を一日に二三回つけまして、つけましたあとを更に、脱脂綿に一パーセントの食鹽水を含ませて洗ひます。

その他クレオリン、或はリゾールの五十倍溶液で患部を洗つてやつても効果が御坐います。

又ザルチル酸を、其の初期に用ひますと有効だも申します。即ちザルチル酸のアルコール飽和溶液を一分と水を九分の割合に混ぜたもので、局部をよく洗ひまして、それから内服としてはザルチル酸〇、五、甘汞〇、〇一を餌に混ぜて與へるので御坐います。

眼を犯されました場合には、温湯を以て眼にこびり付いて居る不潔物を拭き取り、其の後二パーセントの硼酸水で洗つてやれば、治ほる事が多いのであります。

萬病の元となる感冒

此の病氣は極く起り易く従つて非常に之れに罹る鶏が多いので御坐います。矢張り初めは人間等と同じ様に鼻水をたらしまして、大して氣に付かぬ様な場合が多いので御坐います。然し關はずに置きますと、鼻汁が濃くなり粘り氣が出て参ります。そして次第に眼瞼が腫れて來まして、顔の兩側が膨れるもので御坐います。

それで此の感冒は、始めは單に鼻腔カタル位のものであります。夫れを關はずに置きますと次第に重くなつて行きました、彼の怖る可きループだとか、チフテリー等に變り易いもので御坐います。餘程注意をなさらねばなりません。此の病氣は、冬雨が降つて濕つぽかつたり、夜窓を開け放したま、關はずに置いたり、或は又夜板の隙間から漏れて來る風に當るとか、冷たひ濕つたぬかるみを歩かせたり、それから雨に當てたりすると、必ず起るもので御坐います。

それで鶏がか様な病氣に罹りましたならば、直ぐに温い良く乾燥した鶏舎に移して、滋養の多い食物を與へ、冷い濕氣を含むだ空氣に當てないやうにしまして、夜は殊に温度の變化に注意を致し、空氣の流通を良くしてやりますれば、大抵は治ほるもので御坐います。

それから又、鼻の中とか顔を、水に酢を加へ、又は硼酸を加へた温湯で洗つてやれば良いのであります。

然し一度治ほつた病雞を再び舊の小屋へ歸へしまして、隙漏る風等に當てると再び風邪を引き、病氣を繰り返へすもの故、板の隙間等は完全に目張りをしてやらねばなりません。

咳をする氣管支加答兒

鶏が咽喉をゴロ／＼鳴らし、頻りに咳をする時は、確かに此の氣管支カタルに罹つたので御坐います。

鶏は咳をする度毎に、ガツ／＼と嘎れたシャガレ聲を出し、粘つた液を澤山に出しますから、直ぐに分ります。

此の病氣に罹ると元氣がなく、衰弱致し、次第に息苦しくなつて参るもので御坐います。

此の原因は何かと申しまするに、寒かつたのが急に温かになつたり、又は急激な寒さが來たり、それから温かな小屋に居たのが急に外に出て、寒い空氣に觸れたりする事で御坐います。

秋の末とか冬の寒い時に、朝早く運動場に出すとか、又は寒いから云つて、炭火で温めてやつた小屋へ鶏を入れて置いて、夫れを急に運動場に出したりするのは、最も良くないので、直ぐに感冒に罹ります。

病鶏に對する治療法は、先づ温く乾いた場所に移しまして、甘汞〇、〇六グラムと吐酒石〇、〇〇八グラムを混ぜて、夜中に飲ませると、治ほるもので御坐います。

それから又、野蒜を指の頭位の大きさのもの一つ位宛、毎日食べさせまして、温ま湯と、温く練つた餌を極く旨く造つて與へて居りますれば、必ず効くもので御坐います。

此の病氣が重くなりまると、肺炎等に變る事が多いので御坐いますから、なるべく軽い内に早く癒さしてやらねばなりません。

兩眼が落ち込む肺炎

鶏が肺炎に罹りますると、食欲が減退致し餘り食物も食べなくなり、息支ひが苦しさうになりまして、嘴を張つては如何にも痛さうに致しまして、時々ゴホン／＼ではなくゲツゲツと短い咳を致して、

すもので御坐います。

此の病氣が重くなるに従ひ、兩眼が陥ち込むで参り、遂に衰弱して死むで仕舞ひます。

此の病氣は、前に述べた氣管支カタルから變はる事が多いので御坐います。温度が急に變つたり冷い濕り氣の空氣に觸れたり、空氣の流通が悪かつたり、夜明け方に隙間から忍び込む風に當つたり致しますと、起るもので御坐います。

病鶏が出来ましたならば、温かい場所に移し、滋養分のある餌を食べさせ、亞麻仁で造つた粥を與へますと、時に効能が御坐います。

又時々グリリン或は肝油を飲ませると直ぐに治ほりますし、或はカラシを酢に溶かして、翼の下肺の所に塗つてやるのも効能が御坐います。

肉落ち骨高まる結核

鶏は結核に罹りますると、急に瘠せ衰へまして、目方が減つて参ります。即ち肉は落ち、骨は高まり、胸の骨等を見ますれば、兩側の肉が落ちまして、肉冠は蒼白く變つて來ます。

これが段々重くなりますれば、ぼんやりと眠つて居る様な事が多くなり、下痢を起すので御坐います。

此の下痢を起しますと、身體が疲勞れ弱りまして、遂に死に至るもので御坐います。

之れは詰り、内臓が害されて居る時で御坐いますが、其の外に關節を犯す事もあります。又骨を犯す事もありまして、此の時には鶏は跛を引いて歩きます。

それから脚の節々が腫れまして、偶には其處が爛れ、その爛れた所から膿汁を流し出すもので御坐います。

此の病氣は人にも他の動物にも移るもので、鶏が肺病人の咳いた痰や、肺病に罹つて居る動物の肉類等を食べますと起るものであります。

つまり、鶏小屋が陰氣で、空氣の流通が悪く、土地が濕つて居る所へ、悪い餌や、汚い水等を飲ませますと、よく罹る病氣なので御坐います。

此の病氣は慢性のものであります故、其の撲滅には、殆ど鶏小屋全部を始末せねば、病菌の撲滅は六づかしいので御坐います。

そして死むた鶏は必ず焼き棄てまして、糞は能く掻き集めて、これも焼き棄て、仕舞ふのです。

其の他鶏小屋の内外に、普ねく熱湯をかけて良く洗ひました後に、二十倍の石炭酸を撒布しますとか、又飲食用の器具、産卵箱なども同じ様な消毒を行ふのであります。又運動場にも石炭酸や石灰水を撒いてやらなければなりません。

か様に致して、病鶏は清潔な空氣の流通の良い温い場所へ隔離いたし、野蒜の玉と唐辛を少し入れた水を飲ませ、滋養の多くある餌を充分に與へますれば、軽いものは治るものであります。

然し乍ら、重いものになると、仲々治ほらないもので、一日二日で治ほらなかつたものや、重い病氣のものは、直ちに殺して仕舞ひ、之れを焼き棄てねばなりません。

殊に此の病氣に罹つた鶏を、つぶして食べたりする事は、絶対にいけません。

よく焼き棄てるのは惜しい等と云つて、食べる人が御坐いますが、此の死體の中には、無数の結核菌が居りまして、人間にも寄生するもので、危めて危険な事でありまして、間違つても斯な鶏の肉を煮て食べたりせぬやうに特に御注なさらぬといけませぬ。

肉冠が黒くなる炭疽

鶏の冠が黒くなり、餌も食はず、元氣なく翼を垂れて、往々下痢を起し、極めて氣持の悪い臭ひのする便を致すやうな時には、即ち炭疽に罹つた證據なので御坐います。

此の病氣に罹りますと、初めは肉冠が淡い紫色になりまして、それから次第に濃くなつて参り黒ずんだ色が出来ます。そして膚には小豆色の小さい斑點を生じ、顔には黒い風疹のやうなブツブツが出来ます。

それから脚や趾は腫れたり、やがて下痢を起して死んで仕舞ふもので御坐います。これは又極めて怖ろしい病氣なので、其の傳染が劇烈で、急性なものになると、忽ちにして斃れるものであります。

此の病氣は人間や他の家畜類にも起り、之れから感染する事が最も多いのでありますから、此の病氣に罹つて死んだ、家畜類の肉とか骨とか皮などを、鶏小屋の側に棄て、はなりません。又、鶏小屋が冷えて濕つて居る所へ、不潔な水を飲ませるとか、腐敗しか、つた餌を與へるとかす

れば、其の感染するのが最も迅速になる危険が御坐いますから、よく注意する必要が御坐います。

それで、此の病氣に罹つた鶏が出来ましたならば、早速他の鶏と隔離致し、鶏小屋は充分に清潔法と消毒法を行ひ、病鶏は温かい乾いた場所へ置き、水の中へ石炭酸を入れて飲ませまして、硫酸鐵とか葡萄酒ビール等へ少々カラシ等を加へ、そして之れを飲ませるこ、効驗がある様で御坐います。又軽い時でありましたならば、ヒマシ油とか甘菜等を、内服薬として與へると治はるものであります。

趾がちぢまる捲趾病

此の病氣は小さい雛に多く起るものでありまして、脚の趾が捲き縮まつて、冷たくなり歩く事が出来なくなるもので御坐います。

之れは未だ早い内に冷たい土の上を歩かせたり、又は水を零した床を關はずに置いて、其處で冷えさせたりすると起ります。

又卵を産むで居る雌などにも起る事が御坐います。

これを治ほしますのには、病鶏を温い湯の中に立たせて置きまして、指で其の趾をのばしてやり、刷毛などで良く摩擦してから湯の中から取り出しまして、羽毛に付いた濕氣を充分に拭ひ去つてやります。

それからテレピン油を患部になすり込んで布を上から巻いてやり、そして之れを温かい場所に、靜かに休ませて置くのであります。

雛でありますならば大抵は一回丈で治ほるものでありますが、若し治ほらなければ、二三回繰り返へしてやれば必ず治ほります。

立てなくなる脚弱病

此の病氣も雛に多く起るものでありまして、體の重みを支へる事が出来ず、暫くも立つて居る事が出来ないもので御坐います。

初めは、脚が弱つて参りまして、永い間立つて居る事が出来ず、歩きますのにもヨロ／＼致し、遂

には全く立つ事も出来ず、餌等は伏した儘で食べて居るものであります。

これは雛の筋骨がまた充分に發達しない前に、體の重み許り増加した爲に、其の重みで脚を弱めるのであります。

それから石灰質の餌だの骨粉や土砂等が不足しても起るもので御坐いまして、鶏の種類に依りまして、良く糶るものゝ減多に糶らないものとあります。

一般に重量の重い鶏は多く此の病氣に糶り、軽い種類の鶏は、之に糶る事が少ふ御坐います。

此の病氣は、別に之れぞと云つて、直接に治療する事は出来ませんので、先づ筋骨の發達を促すやうな、動物質の飼や骨粉貝殻、石灰土砂等を多く食べさせ不消化な穀粒を少く與へるやうにすれば効能が次第に現はれて参ります。

それから時々林檎酸鐵を〇、二から〇、五グラム位飲ましてやれば一層効能があるもので御坐います。けれ共、重くなつて容易に治ほらぬやうでしたら、つぶして仕舞ふた方が經濟的であります。

寒さで起る肉冠凍傷

肉冠凍傷は肉冠の大きい種類に多く起るものでありまして、嚴寒の季節に非常に冷たい空氣に當りますと、肉冠や肉髯に、初めは皸のやうなものが出来、其の部分が次第に爛れて参りまして色が赤黒くなるので御坐います。

之れを豫防致しますのには、小屋を温暖にして置き、寒い日や風の吹く日は外に出さぬやうにするので御坐います。又冠が大きい鶏で御坐いましたならば、布で袋を作つてやり、夫れを被せてやると良いと申す人も御坐います共、夫れ迄には及ばぬので御坐います。

若し此の凍傷に罹りましたならば、先づ鶏を温い場所に移しまして、毎日一回か二回温ま湯で患部をひたし、その後濕氣を良く拭き取つて、グリスリンを塗つてやればよいので御坐います。

踵骨挫傷の手當て法

鶏がガラス片とか瀬戸片とか細い木の株等を踏み付けたり致した爲に、初めの内は跛を引いて居り、遂には歩けなくなる事が御坐います。

之れは踵骨を挫傷しましたので、踵の裏を見ますと、小さい瘤のやうなものが出来て居り、それ

を關はずに置きますと、やわ／＼と膨れて参りまして、其の中に膿を持つやうになるのであります

此の病氣はコーチンミカ、ブリアウスロツク等のやうに身體の重い鶏に多く起るもので、高い所から飛び下りる時等には、よく此の危険を伴ひます。

それ故重い鶏を飼つて居ります場合には、良く注意をして運動場に、瀬戸片、硝子かけ、尖つた石などを棄て、置かぬやうに致し、棲架等もなるべく低くして置いてやらねばなりません。

又踵骨挫傷の鶏には、其の手當をしてやらねばなりません。

それには、膿のある瘤を、十文字に切り開いて、中の膿を押し出して、其のあとを温ま湯や、薄い石炭酸で良く洗つてやり、それへ硝酸銀を塗つて、上から布で巻いてやり、歩く時に其處が直接に地面に觸れないやうにしてやるので御坐います。

骨を挫いた時の手當

鶏が犬や猫の爲に攻撃されて骨を挫き折る事が御坐います。大抵は脚とか翼の骨を折るもので御坐います、自分の過失から怪我をするやうな事は少いのであります。

今若し脚を折りましたのならば、其の折れた部分を静かに引伸ばして置いて、挫けて居る骨を接ぎ合はせ、卵の白味を攪きまはして厚い紙にのべたものを以て、其處にベッタリと貼りつけ、上から糸で確かりと結び、細い木片を脚の兩側から添へて結びて置けば、いつの間にか治ほるもので御坐います。

又翼の骨を挫きました場合は、前と同じやうな療治をしました上で、翼を良く疊むで其の上から布をまき付けて置きまして、飛び跳ねられぬやうにしてやります。

そしてなる可くならば、他の鶏から隔離して、静かな場所へ餘り運動させぬやうにして置けば、大抵一週間も経てば治つて仕舞ふもので御坐います。

第五 孵化の話

— 種卵の心得 —

種卵を買ふ時の注意

却説、鶏を飼ひ初めて約一年も過ぎ、鶏と云ふ者は奈何いふものであるか、その事が幾分なり共お分りになりましたならば、愈々種卵を試みなさるも、面白い事で御坐いませう。

先づ卵を解へしますには、種卵が必要で御坐います。處が卵には、解へる卵と解へらぬ卵とが御坐いますから、此の事にも充分御注意をなさらなければなりません。

勿論お宅で産みました卵でも良ので御坐いますが、夫れよりも一番定全なのは、種卵屋から買入れる事で御坐います。それで買入れる時の御注意を一寸申上げます。

世間に入り觸れた種卵屋には、實に良い加減なものが多く御坐いまして、そんな種卵屋から買入れまして、解へして見た所が、一羽も解へらなかつたとか、妙な皺が出来たとか、兎に角鳥渡聞きましても、實に馬鹿けたやうな事が、良くあるもので御坐います。

それは素人でありますから、宜い加減な卵を賣り付けられますので、本来ならば種卵屋の不徳義を責む可き筈なので御坐いますが、然し罪は素人の買手の方にあるのではないかと私は思ひます。何の注意もせず、之れが銘鶏の種卵だ、などと、旨々欺されまして、宜い加減の卵を賣り付けられ、そして卵が解つてから、初めて勿驚する云ふので御坐いまして、それが又途方もなく高い値段で賣り付けられて居るので御坐いますから、側で見て居ると、實に腹が立つ程で御坐います。

私はよく地方の篤志家から、種禽種卵屋の不徳義を攻撃した手紙を買ひますが、貰ひました所で私には何の工夫も付きませぬ。それよりは各々御自分で、よく氣を付けなされるに越した事はないのであります。

此のせち辛い世の中に、そんな事でもして行かねば、哀れな種卵屋は立つて行く事が出来ぬのであります。或は之が社會の罪かも知れません。

種卵屋の不徳義を責めまするよりは、寧ろ買手の素人側で、良く用心をしてつまらぬ目に遇はぬ様にする方が、奈なに賢明なやり方だか知れませぬ。

それで、種卵を買ひ求めます場合には、信用のある、世間でも悪く云はない、評判の良い種卵屋を選ぶ事に致しまして、世間の評判が分りませんでしたら、止むを得ませぬから、買ひに参りました際に、商人の顔貌を見ます。

大抵人の心は其の人相に現はれるものですから、人相を見まして、此の人間ならば不徳義なことはせまいと、思ひましてから充分に念を押して置いて、買ふ事にするので御坐います。

然し出来る事ならば、養鶏雜誌社等の紹介を得ましてから、買求める様にするのが、一番安全な方法だらうと思ひます。

目下東京で、養鶏雜誌を出し、器具器械類等も傍ら販賣して居る所は、神田區猿樂町二番地家禽世界社位のもので、此の社は昨年ごろに創立され、斯界では唯一の權威者であると云はれ、又仲々確實だ云ふ評判も御坐いますから、茲に萬事御紹介になれば、親切に取計らつて呉れるだらうと思ひます。

卵は奈な形が良いか

種卵を買ひます場合には先づ形を調べなければなりません。卵は形に依つて其の良否が分るものであります。

必らず分るとは決して居りませぬが、大概は分るので御坐います。

譬ひ素人でも大抵は形を見て、之れは悪いか之れは良いかと云ふ事が分るものであります。然らば奈何いふ卵が悪いかと申しますると、馬鹿に大き過ぎるのや、又は馬鹿に小さ過ぎるのが、

先づ第一に落第と見て差支ひが御坐いません。

尤も鶏の種類に依つて、其の卵にも大きい小さいがありますから、一概には申されないので御坐います。例へば自分が買はうと思ふ卵が、レグホン種のものであるならば、其のレグホンの卵を澤山見せて貰ひまして、か様にすればレグホンの卵は普通、之れ丈けの大きさと云ふ事が分ります。

其の普通の大きさに較べて見て、大き過ぎたり小さ過ぎたりするものは、落第にして了ふのであり

ます。

第二番目には、卵の表面を調べて見ます。

凸凹があつたり、皺があつたり、形がいびつになつて居たりするものがありますから、之を不合格として取り除くので御坐います。

第三番目に、餘り圓過ぎたりするもの、又は餘り長過ぎたり、或は先端が尖り過ぎたりするもの、之等を全部不合格と致しまして、後に残つた形の中程な、良く調つた格好を持つて居る卵を合格と致します。

然し之れで全く及第したものとは云はれないので御坐いまして、以上は先づ豫備試験に及第した様なもので御坐います。

次に殻の色等に就て調べて見なければなりません。

つるくの卵は悪い

扱て愈々本當の検査となるのでありますが、夫れには卵の光澤や、殻がつるくして居るか、さらさら

らしてゐるか、其の程度を調べるので御坐います。
 殻にも、非常に薄くて直ぐにも破れさうなものがありません。これは手に取つて見れば、素人でもよく分りますから、悪いものをして第一番に除いて仕舞ひます。
 次に殻がつる／＼して居て油氣がある様に見えるものや、殻の地質が無暗に緻密で、如何にも硬さうに見えるもの、之等は不良卵の部類に這入るものでありますから、除いて仕舞はねばなりません。さればと云ひまして、餘りに光澤が無さ過ぎて、ざら／＼して居りますのも良くないのでありますから、除き去る必要が御坐います。
 か様に致しまして、後に残りました卵は奈なものであるかと申しまするに、殻が相當に厚く無暗に破れる怖れがなく、地質が適當に緻密であり、色光澤がホンノリ致して居ります。
 譬ひて見まするならば、可愛い、お子様の無邪氣な兩顔のやうなものだと、想像して見ますれば、最も適當だらうと思ふので御坐います。

瑕の有る悪い卵と音

以上述べました所で、大抵は間違ひなく、良い卵許りを選ぶ事が出来ます。
 けれ共往々殻に目に見えない瑕がありまして、切角解へさうと思ひましても、既に其の卵が死んで居る事が御坐います。
 烏渡お断りを致しますが、卵が生きて居ると云ふ事はご存じでありませうが、初めから生きて居ない卵もあると云ふ事を知つて居なければなりません。即ち無精卵等は、あれは初めから生きて居ないので御坐います。
 瑕の有る卵も既に死んで居る場合が多いのであります。
 茲に瑕と申しましても、夫れが大きければ誰にでも、直ぐ分りますが、困ります事には、眼に見えない瑕のある事で御坐います。
 此の微細な瑕を見付けますのには、奈何致せばよいか、まさか顕微鏡で検査するわけにも、参りませぬからそれには、次の様な方法で、卵の音で見付けるので御坐います。
 勿論素人の方には烏渡分りかねるかも知れませぬが、爪で弾いて見まして、其の音を聞くので御坐います。

其の音が若し、普通の卵の音とは大變違つて居りまして、異様な響がする様でありましたら、確かに小さな瑕の有るものと認めて宜ろしいので御坐います。

音響が卵の良否と云ふ事は、烏渡面白い問題でありまして、女人になると極めて上手に之れを以て撰り分けるものであります。

然し素人には、少し面倒な仕事であります。大體爪で弾いて見まして、カチン／＼と馬鹿に硬さうな音のするものは、解へらぬ事間違ひなしと、申しても宜いので御坐います。

兎に角か様に致して、不合格のものを取り去つた、残りのものが良い卵と云ふ事になるのであります。一般に亦解へる事が確かなので御坐います。

卵は産み立てが良い

卵は生きて居るものでありますが、餘り長く保存して置きますと、死んで仕舞ふのであります。

死んだ卵には解へる力が御坐いませんから、死な、い前に解へさせねばなりません。

一體卵は奈れ位の期間生きて居るかと申しますれば、必ずさう決つて居るに云ふわけでは御坐いま

せんが、普通三週間か四週間位のもので御坐います。

それでありますから、生後六、七週間も経つた種卵を買入れた處で、何の効もない事でありませ

良く生後随分日数の経つたものを、賣り付けられる事がありますから、良く用心して買はなければなりません。

生後二週間位経つた卵が、解つてから雛の育ちが良いと云はれて居りますが、然し産み立ての卵に越した事はないので御坐います。

産立ての卵でありましたら、其の解へり方が、ズット早くなりますから、素人の方には待ち遠しくなくつて、至極妙であらうと思はれます。

一體素人と云ふ者は、非常に氣が短いもので御坐いまして、最う解へるか、最う解へるかと、盛に氣を揉むで、餘計な心配をするものですから、此の様な方々には、産み立ての卵をお奨めして、早く解へらせました方が、餘計な心配をかけないだけ、それだけ功德になると思ふので御坐います。

卵の雌雄はわからぬ

卵の雌雄の問題に就きましては、遠い昔から議論が御坐います。

ズット古い事を申せば、既にアリストートルが研究致しました。

其の後大抵の生物學者や哲學者は、大變に此の問題で頭を悩まして居たやうで御坐います。

それで先づ卵の形で、雌雄を見分けて見やう等と、考へられたのが最も多いやうであります。

大きい卵が雄だの、丸いのが雌だの、何だのかだのと、宜い加減な想像を述べ立てまして、さも眞

理でも發見したかの様に、嬉しがつて居たもので御坐いますが、夫れ等の學說も、一々片端から實

験の結果の爲に、打ち破られて參りました。

西向きになつて産れた卵は雄であるとか、戸外で生れた卵は雌であるとか、又は生れた時間によつ

て雌雄が分るとか、さもく本當であるかの様な議論を、眞面目に吐いて居る堂々たる學者が、大

分有つたやうであります。

近世になりましてからは、糸の先に針を吊して、それを卵の側へ寄せて見ますと、其の動き方で雌

雄の見分けがつく、など、一體何處から割り出したのであらうと私共の頭に、疑ひを起させる様

な議論をする人達も飛び出して參りました。

要するに、分らないものには、種々様な理屈をつけて、分つたやうに思はせたがるのが、人情で
ありますから、致し方が御坐いません共、餘りに飛び離れた奇想天外的な、議論を聞きますの
は、一種の好奇心を驅る事も御坐います共、一面に於て亦一種の苦痛を感じさせられるもので
御坐います。

此の頃世間に、百發百中、卵の雌雄早分りなど、飛んでもない廣告を出しまして、素人の方々を
欺してやらうなど、企てる人も時々現はれて參るやうになりました。

然しながら、此のやうな事に欺されないうに、注意をせねばなりません。
要するに今日、學問上の智識を以て云ひますならば、卵の雌雄は分らないものであります。

— 親鶏でやる孵化法 —

孵卵に適當する時節

前に種卵に就て大體述べましたが、種卵が兎に角手に入りましたならば、愈々孵化に着手する順序

となるので御坐います。

然し解卵のお話を致す前に二つ三つ、注意せねばならぬ事を述べる必要が御坐います。第一に必要なのは、いつ頃が卵を解へすに都合が良いか、即ち其の時期で御坐いますが、之れには

色々喧ましい議論も御坐いますけれど、素人ならば、先づ春と秋に解へすのが一番良いと思ひます。此の時期なれば、失敗も少いし又雛を育てる上にも、種々な便宜が御坐います。其の他夏に解へしたり、冬に解へしたりする事も御坐いまして、各々一利一害のあるもので、必ず

春でなければならぬ、秋でなければならぬ、と云ふ事は御坐いません。何時行ひましても差支ひはありませんので、只其の人数が餘計か、り、扱ひ方や雛の育て方に、面倒だと云ふ位の相違があります許りで、直夏の盛り、嚴寒の最中に解へしても、結構良い成績を得られる事も御坐います。でありまするが、未だ慣れない素人の方が、行ひますのには、奈何致しましても、春二月から三月四月上旬、秋九月から十月の間に行ひますが、安全で且つ確實、解つた後の雛の育て方も仕易いので御坐います。

物置で抱かせなさい

却説、愈々解卵に取りかゝる事と致しまして、抱かせるに良い場所は、奈な所か、此の事を一應心得て置く必要が御坐います。

勿論素人の事で御坐いますから、解卵場等を特別に設ける必要は御坐いまひん、又設けた所で左程大した利益を望むと云ふ事も出来ませんから、抱かせる場所に就ては、特別の設備を作りなさいとは、お奨め致しません。

先づ物置とか、庭の隅とか、其他納屋、木小屋、そんな所を利用致しますれば、それで充分であります。

と云ひまして、そんなら卵を抱かせる場所には、左程注意を拂はなく共良いのか、と申しますれば決して左様ではないので御坐います。

只金をかけて特別に解卵場を設ける必要はない、とか様に申しました迄で、抱かせる場所に對する注意は、決して等閑にしては不可ません。

先づ抱かせる場所の大切な要件と致しましては、清潔な事、静かな事、犬猫の這入らない事、此の三つを數へる事が出來ます。

これは人間でも同じ事で御坐いまして、奥様方がお産をする所は、不潔な處や騒々しい處、か様な所は良くないと同じやうなもので御坐います。

兎に角、不潔な所は大禁物で御坐いまして、害虫が湧いたり、親鶏の健康を害したり、從つて解つた雛にも大きな害を與へます。

騒々しい處で、親鶏を愕かせる機會の多い所では、種々様々な不利益が伴ふもので御坐います卵を抱いて居る最中に親鶏が驚いて飛び出したり、或は抱卵を途中で止めるやうな事がありまして、解へすのに不都合のある事は云ふ迄もないので御坐います。

犬や猫が這入り易い所、犬や猫が侵入して參りまして、親鶏を掠めて行くやうな處の悪い事は、申す迄もないのでありまして、之等の外敵の侵入を防ぐ用意も、相當に施してやらねばなりません。

要するに以上の三つの要件が揃ふた所で、其の上に寒い風が吹き込むたり、雨水が漏つたり、或は濕つばい所はなる可く避けまして、温か度よく乾燥した物置等を選びまして、其處に少し許りの手

入をしてやれば、先づ大體結構であらうと思ひます。

巢箱には廢物の利用

抱卵の場所が定まりましたならば、次に巢箱を用意しなければなりません。

此の巢箱と申しました所で、何も上等なものを、特別に造る必要は御坐いません。

密柑箱とか、古桶とか、大體そんな種類のものを利用して結好で御坐います。

兎に角素人の方が、養鶏を行ひますには、なる可くか様な廢物の利用をやると云ふ心掛けを持たねばなりません。

金をかけたから必ず成功するとは限らぬものでありまして、寧ろ旨く廢物を利用してやつた方が、遙かに成績があがるもので、古桶密柑箱位の物を用ひますが、一番宜ろしう御坐います。

密柑箱などが御坐いましたなら、先づ之れを綺麗に掃除致しまして、其の中へ柔い藁ミカ乾し草を二寸位の長さに切つて、成る可く強く押しつけて置きます。

餘り柔かに敷いて置きますと、卵が底の方へ沈んで仕舞ひまして、充分に温熱を受ける事が出來な

くなります。

そして其の上には、金網等を被せて置き、親鶏が無暗に飛び出さない様にして置く事が大切であります。

鳥渡竝に注意して置きますか、巢箱を地面へ置きます場合に、底の方に無数の小さな孔を作つてやれば、濕り氣が自然に上につて來ますから、卵を乾燥させる様な怖れはなくなります。

元來卵と云ふものは、餘り乾燥致しますと、解へらなくなるもので御坐います。

濕り氣も相當に、解化する上には必要なもので御坐いますして、夫れは自然に地面から、上つて來る位の程度が極く適當なので御坐いますから、寧ろ箱の底を抜いて、直接に地面へ敷藁をしいてやつた方が、宜ろしいやうで御坐います。

兎に角乾燥の土地を擇ぶと云ひましても、やはり程度云ふものが御坐いますから、此の邊の呼吸を良く吞込むで置かなければなりません。

優しく慈愛ある巢鶏

卵を解へしますのには、奈な鶏が一番宜ろしいか三申しますれば、先づ優しく和順しい、慈愛の深い親鶏が良いので御坐いますして、若し亂暴な荒々しい鶏でありますら、卵を抱いて居る最中に、破して仕舞つたり、解つてから雛を壓し殺したりする事が御坐います。

詳しく申せば、餘り重過ぎない者、餘り輕る過ぎない者、餘り活潑過ぎない者、か様な者を選び取れば宜ろしいのでありますが、親鶏にも卵の解へし方に上手下手が御坐いますして、極く下手な親鶏に抱かせやうものなら、卵は壞される、雛は殺される、と云ふ誠に慘めな目に遇ふもので御坐います。

それで、此の親鶏は上手であるか、それ共下手であるか、と云ふ事を調べて見なければなりません其の方法には種々あるので御坐いますして、大抵温順しい優しい鶏を選べば良いので御坐いますが、それでも不安心だと思ひの時には、其の親鶏を巢箱の前に立たせて見るので御坐います。

そして巢箱の内へ這入る時の様子を見るので御坐いますが、急に箱の内へ飛び込むだり、或は脚を眞直に伸ばした儘、内へ這入り込むだり致すものは、之れは解へし方の下手なもので御坐います。先づ巢箱の内へ這入らうと致しまして、暫く其の周圍を廻つて居り、聽て徐々と巢に這入る者、又

は這入る時に良く脚を曲けては入る様な者でありましたら、解へし方の上手な親鶏だと、認めてよいのであります。

此の様な鶏でありますならば、抱卵中に卵を壊したりする怖れもなく、又仲々忍耐力も強いもので途中から解へすのを廢めて仕舞ふ、等と云ふ事は滅多にないもので御坐います。

そして解へつた雛を育てます事も上手で、不注意の爲に壓し殺したり、又は蹴殺したりする事もありませんから、安心して居る事が出来るので御坐います。

一羽の巢鶏に十の卵

扱て愈々卵を抱かせやうと云ふ事になるのでありまするが、一體幾個位の抱かせたら良いか、素人には一寸其の見當がつかないもので御坐います。

無暗に多く抱かせますと、卵は壊されるし、又解へらぬ卵なども出来て参ります。

さればと云つて、一つとか二つとか、馬鹿に少い數に減らして見ると、解へらぬ卵があつた時には雛が一羽とか二羽位しか出ず、骨折り損のくたびれまうけになるので御坐います。

そこで多からず、少なからず、程良い所の數は幾つであるか、と申しますれば、先づ一羽の巢鶏に十の卵で御坐います。

尤も巢鶏の大きい小さい、卵の大きい小さい、などに依つても違ふもので御坐いますけれど、普通の鶏で普通の卵ならば、十ぐらゐるが一番手頃で御坐いませう。

小さい卵ならば、十三四、大きいのなら七つ八つ、か様な風に、十の數を中心として、其の時々に應じて、増減すれば宜ろしいで御坐いませう。

模造卵のもちひかた

茲にも一つ注意せねばならぬ事が御坐います。

それは、若し親鶏が本當に巢に就いたのならば、別段の事も無いので御坐いますが、往々本當に巢に就いたのではなく、巢に就いた眞似をする事があります。此の時に一寸困る事が出来まますから、此の注意が必要となるので御坐います。

それでか様な鶏に、本當の種卵でも抱かせやうものならば、途中で巢を離れられて、切角高い金を

出して買ひ求めました卵を、丸損にして仕舞ひます。

かやうな危険が伴ふもので御坐いますから、此の鶏は本當に巢に就たのか、それ共單に巢に就く眞似をして居るのか、夫れを確かに調べる必要が御坐います。

その爲に此の模造卵が必要となつて來るのであります。

模造卵には木で造つたものや、白土で造つたものなどが御坐いますけれ共、ガラスで造つたもの、方が、譬ひ汚れましたも、直きに洗ふ事が出來ますから、一番便利であらうと思ひます。

で此の模造卵をいくつか、先づ鶏に抱かせて見ます。

抱かせる場合にも晩を見計つてやるのが良いのでありまして、さうしませんと、鶏は良く模造卵だと云ふ事を見破る事が御坐います。

そこで幾日か此の模造卵を抱かせて見まして、愈々本當に巢に就いた事が分りますれば、今度は本當の卵に取換へるので御坐います。

此の場合にも、特に夜中を選び取り換へるやうに、すれば宜いので御坐います。

模造卵の数は四つか五つあれば充分で御坐いまして、入れ換へる場合にも、成る可く母鶏を驚かさ

ぬやうにせねばなりません。

亂暴な事をやつたり致しまするに、切角巢に就いたのが、中途で廢して仕舞ふ事がよくありますから、注意をなさらねばなりません。

抱かせてからの注意

却説、愈々巢鶏に卵を抱かせました。巢鶏は飽きずに卵を抱いて居ります。これで最う大丈夫だと其の後は關はずに置いて宜いかと申しますと、決してさうではないので御坐います。

孵化の難かしいのは、抱かせてから後の事で御坐いまして、成功するのにも失敗するのにも、其の注意が行届くか行届かぬかで分れるものであります。

第一番には検卵と云ふ事をやりますので、此の検卵とは讀むで字の如しで、卵を調べて見る事であり

ります。抱かせた卵が、果して有精であるか、即ち生きて居るものであるか、死むで居るものであるか、其の事をよく検査する必要があるので御坐います。

死むだ卵を抱かせて置きました所で、しやうが御坐いませんから、若し無精の卵が御坐いましたら早速夫れを取り除いて新しい種卵を入れ換へてやらねばなりません。

検卵の他に、モット大切な事は、卵を抱いて居る鶏の注意でありまして、之れが亦仲々骨の折れる仕事で御坐います。

人間で申す産婦の取扱ひが面倒であると同じ様で、餘程注意しませぬと、失敗する事が御坐います。これから、抱卵中の注意を少し詳しく述べて見度ひと思ひます。先づ孵卵の大切な事は、抱卵中の取扱ひ方であると云ふても宜いのでありますから、よく御注意なさらぬこいけませぬ。

第一回目の卵の検査

前にも申し上げました通り、検卵は卵が死んで居るか生きて居るか、それを調べるので御坐います。が、これには検卵器等云ふ様な器械が出来て、それを販賣して居ります共、別に斯なものを買ひ求めなく共、充分に調べる事が出来ます。

大抵、ランプの光さか、蠟燭の光などに當て、見ますれば、直ぐに分るもので御坐います。

第一回目の検卵は、卵を抱かせてましてから、一週間目位に行ひますもので、此の場合には、有精卵と無精卵とを見分ける事が出来るもので御坐います。

母鶏が巢を離れました時とか、又は巢に就いて居ります時でも宜ろしいので、一つ宛取り出しまして、暗い處で光に當て、調べて見ます。調べ終わりましたら早速巢の中へ入れてやり、餘り永く外に出して置いてはなりません。

調べます時には、卵を手の間に挟みまして、ランプの光に當て、見ます。有精卵で胚子が育つて来たものは、中央の所に星のやうなものが見えまして其の周圍に脈の様な筋が分れて出て居りますから、直ぐに分ります。

無精卵で御坐いますと、か様なものが見えず、透明になつて居りますから、之れは取り除いてやるので御坐います。

又時によりますると、中央に星のやうなものが見えませ共、其の中に黒い點があつたり、又は筋が星の周圍に丁度環のやうになつて、取り巻いて居る事があります。

斯う云ふ卵は、發育が充分に達し得ないものでありますから、之も取り除いて仕舞ふので御坐いま

す。

か様に致しまして無精卵を、取り除きましたならば、其のあとへ新しい卵を補充してやらなければなりません。

尤もか様にすれば、解へる雛に早い遅いが出来て、都合が悪いと思ひましたならば、補充せずに残りのもの丈けを、解へす事にしても良いのであります。

そして取り除かれた無精卵は、未だ食用に供しても差支へは御坐いませんから、食べて仕舞つた方が良いでしょう。

又、仲々手で取つて見た丈けでは、充分に検査する事が出来ないと思ふ人は、検卵器を買つても良からうと思ひます。別して高價なものでもありませんから、安全確實にやり度ひと思ふならば、お買ひになつた方が、寧ろ利益で御坐いませう。

第二回目の卵の検査

第一回目の検卵が終りましたならば、第二回目の検卵を致します。

其の時期は、大抵卵を抱かせるから、二週間目位にやるので御坐います。

第二回目に検査して見た卵が、果して悉く皆育つて行くものであるか、奈うであるかと云ふ事を調べるので御坐います。検卵の方法は前に述べたと、變りは無いのであります。

此の時には、卵の中に見えた星の様なもの、ある事は、前と同様で御坐います。脈の数が非常に増いて参りまして、卵の一部分が暗くなつて見えます。

此の様なものは發育が良いのであります。第一回の検卵の時の様子と、殆んど變りの無い様なものは、孵化の作用が、途中で何かの故障の爲に、止まつたものでありますから、最早育つ事のない卵を看做して、除いて仕舞はなければなりません。

第二回目の検卵の時にも、未だ無精卵が残つて居る事が御坐います。

か様に時日を経過しました無精卵は、最早食へる事が出来ないものでありますから、之れは雛の餌などに用ひる事とするのであります。

兎に角、第一回の検卵の時に、成る可く悪い卵を全部取り除いて仕舞ふた方が利益で御坐います。第二回目の検卵の結果、取り除かれる卵が多いと、全く困る事がありますもので、今更新らしい種

卵を補充して入れるに云ふ事は、孵へり方の早い遅いが著しくありますから、最う補充するといふ事は、悪いものだと考へられた方が得策で御坐います。

これは損得の方面から許りでなく、鶏にも非常に悪い影響を與へる事でもありますから、出来るだけ、一齊に孵へさせると云ふ方針を以て、最初に種卵を良く選び、第二に一回目の検卵の時に、無精卵や悪い卵を全部取り除くやうに、努めねばならないので御坐います。

それには矢張り、金が少しかゝりまして、検卵器を買ひ入れまして、完全に無精卵や悪い卵を取り除いた方が、結局遙かに利益だと思ふのであります。

一文惜しみの何とやら、世間では良く云ふ事ではありますが、僅かな金を惜しむで、大損をする様ではとても、養鶏に及第する事は難しいので御坐います。

但し廢物利用の精神は別問題でありますから、誤解なさらぬ様にお断りを致して置きます。

第三回目の卵の検査

第二回目の検卵が終れば、一般に検卵をやらぬので御坐いますが、大事を取ります場合には、矢張り

第三回目の検卵を致した方がよいと思ひます。

第三回目の検卵をやります時期は、雛が孵へる前、三日頃が宜ろしい様で御坐います。

これは奈何いふ目的でやるのかと申しますれば、全く死んだ卵を見付ける事、それから卵の殻を軟かにしてやりまして、中から雛の出るのを、たやすくしてやる爲で御坐います。

其の方法も色々ありまして、一樣では御坐いませんが、最も普通に行はれて居るのを、二つ三つ述べて見ませう。

先づ第一番に安全な検卵法は、温度で卵の生死を見分けるのでありまして、巢から取出した卵を外

の空氣に觸れさせて十分間位放つて置くので御坐います。

そして冷えたと思ひます頃に、手に握つて見るので御坐いますが、生きて居るものならば、中に居る雛の體温で幾らか温かみを感じる事が出来ます。

然し死んだ卵ならば、冷えきつて仕舞ひ、決してボカ／＼温かくなるやうな氣持が致しません。

検卵とか申して居るので御坐います。

其の方法は、華氏で百四度か五度の湯を、たらひの様なものへ、七八寸の深さに溢へまして、其の中へ卵を入れて見るのであります。

か様に致しますれば、生きて居るものでありますれば、丸い端の方を上にして卵の三分の一位が、湯の上に浮び出るので御坐います。そして中の雛が動きますから、卵は上下へ動き、直ぐに分るもので御坐います。

然し死んで居る卵なら、決してか様な事はなく、直ぐに湯の中へ沈んで仕舞ふのであります。

此の方法を致しますと、卵の殻が湯に浸された爲に、幾分か柔かくなりますので、中に這入つて居る雛が驚ひ弱くありまして、たやすく殻を破つて外に出る事が、出来るやうになります。

然し茲に危険があるに申しますのは、時に發育の早いものでは、卵の内側の膜から湯が中へ這入り込んで、その爲に雛が死んで仕舞ふやうな事がある事で御坐います。

それ故大切な卵へは、此の方法を用ひてはなりません。

そして又、湯に浸して置きますのも、二分間位にして、直ぐに巢の中へ入れてやるやうにせぬと、

害を及ぼす事が御坐いますから、御注意にならねばなりません。

兎に角、此の方法は素人の方には、危険でもありませんし、又餘りに解へる時に切迫して居る頃に行ふのも危険でありますから、若しやらるゝならば、極く細心の注意を拂ひ、注意が出来ぬ時にはやらぬ方がよいので御坐います。

その他第一回目の検卵と同じ様に、光で透かして見る方法も御坐います。

此の時には、丸い端の方を上にして見ますれば、生きて居るものならば、氣胞の内側に凹凸が有りまして、ピク／＼と雛が動いて居るのが見えるものであります。

巢どりのあつかひ方

前にもお話致して置きました通り、巢鶏を巢に就かせましたならば、よく其の扱ひ方に注意をしてやらねばなりません。

抱卵中は、巢どりの管理が一番大切で御坐います。其の扱ひ方如何に依りまして、解へる成績が良くなつたり、悪くなつたりするもので御坐います。

若し又完全に解へりました所で、集鶏の扱ひ方が悪かつたならば、切角生れました雛に、色々な病気がうつりましたり、又は親鶏が充分に、雛を育て、行く事が出来なかつたり致します。そればかりでなく、悪い取扱ひをされた親鶏に解へされた雛は、一般に育ちが悪いものであります。と申しますのは、集鶏が抱いて居る間に、悪い取扱ひをされました爲に、時折巢を離れて仕舞つたり、又は解化に熱心にならなかつたり致します。其の爲に、卵の中で育ちか、つた雛も、途中で様々な故障を受けまして、自然と解へつた後も、育ち方が悪くなるので御坐います。

巢入れは夜になさい

集鶏に卵を抱かせますのには、矢張り夫れ相當の順序が御坐います。先づ場所を選ぶ事、巢箱を安置する事、模造卵を入れる事、之等の事が充分に用意出来ましたならば、愈々集鶏を巢へ入れてやるので御坐います。これは夜の仕事とすれば良いので御坐います。何故夜がよいかと申しますれば、途中で巢を離れる恐れを防ぐ事が出来るのであります。

凡て鶏は自分で選むだ所に、巢籠りする性質が御坐いますから、白晝別な巢へ移して入れまする。矢張り最初に巢籠りした處が戀しいと見えまして、間もなく脱け出して仕舞ふので御坐います。之れを夜中に致しますれば、自分の巢を離されたと云ふ事が分りません。全く無中で居りますから元の通りの巢だと思ひまして、其の儘卵を抱いて居るもので御坐います。却説無事に卵を抱かせましたならば、其の後は用の無い限りはなるべく、鶏や卵を弄らぬやうにせねばなりません。又必要があつて巢から外に出します場合には、両手を以て巧らかに胸を押へてソロ／＼と引き出してやりませぬと、時々卵が脚にからまつて居りまして、其の爲に卵を落して破す事が、往々御坐います。又巢へ逐ひ入れまする時にも、出来る丈け靜かに、亂暴をしたり驚かせたりしては、いけないのであります。

亂暴にして驚かせたりしますと、其の爲に集鶏は抱卵を中止する事が往々御坐います。それから巢から外に出して置く時間も、一回に約二十分位と心得て居れば、良いのであります。餘り永く外に出して置きまするに、其の爲に卵が冷えて、發育を中止する事になります。

又母鶏は抱卵中に、良く卵を産む事が御坐います。か様な場合には、新しく産まれた卵と、初めからの種卵とが混同して區別が付かなくなりますから、種卵には墨などで、印を付けて置かねばなりません。

そして抱卵中に産まれた卵は、見付け次第に取り除いて置く様に心掛けるが肝心であります。それから、種卵は糞の爲に汚れ勝ちのものでありますから、それが少し位汚れたのならば、別段差支ひは御坐いませんが、餘りに汚れて来ますと、今度は孵へるのに大いに妨げとなります。或は卵の中部の發育が充分にゆかない様な結果もなりますから、澤山汚れて居るのを見付けましたなら、温ま湯で綺麗に拭いてやる様にしますが宜いのであります。

抱卵中と母どりの餌

母鶏は、卵を抱いて居ります間は、殆んど運動を致しませぬから、餘り食べる事を望みません。然し乍ら生きものである以上は、奈何しても食べねばならぬのであります故、一定の餌を食べさせる必要が、御坐います。

普通ならば、日に三回位の餌を與へますが、抱卵中は只の一回與へました丈で、充分であります。奈な飼料が良いかと申せば、普通食べさせて居る餌でも結構であります。然し抱卵中は一種病的の状態にあるので御坐いますから、なる可く消化の良い滋養のある物を與へます。

それに抱卵中食物が悪かつたり、或は不足したりしますと、體温が不足しまして、孵卵の目的を充分に達し得られない様な事もありますから、仲々餌の問題も馬鹿には出来ないので御坐います。で普通一般に、母鶏の餌として居りますものは、主食物と致しましては、玄米だとか碎米だとか、或は小麥大麥など、云ふものであります。其他に肉粉骨粉などの動物質の餌も加へ、綠餌としては、青菜大根葉などを用ひて居ります。

此の内で、小麥は之れを與へますと、ビチ／＼した糞をしない様になる効能が御坐いますから、必ず少し宛でも良いから與へてやらねばなりません。石灰質の物は別に與へませず共、骨粉さへ食べさせて置きますれば、充分で御坐います。若し骨粉等を手に入れる事が出来ませんでしたら、貝殻等を碎いてやります。木炭も是非、時々少し宛食べさせなければなりません。

最後に飲み水の問題で御坐いますが、これには充分氣を付けなければなりません。出来るだけ清潔なそして、新鮮なものを、綺麗に掃除した容器に入れて、巢の側へ備へて置きますので、時々其の水の中へ、強壯劑として鐵分を加へてやります。釘とかブリキ屑等を入れて置けば、充分鐵分を與へる事が出来ます。

餌を食べさせる時間

抱卵中の母どりには、毎日一回宛餌を食べさせなければならぬのでありますが、其の時刻は、何時頃が一番良いか、と云ふ事に就きましては、人々に依つて、朝が良いとも云へば又晝頃が良いとも云ふて居ります。

然し今お話しして居るのは、春も秋の頃を主として申して居るのでありますから、夫れを頭に置いて考ひねばなりません。

夏近い暑い頃でありますならば、寧ろ朝與へた方が良からうと思はれますが、春先秋の頃には、矢張り晝頃が良いので御坐います。

とに角朝など、ヒヤ／＼する時に、外に出して食べさせる事は、一方では母どりに寒さを當てる事になり、健康上面白くないと同時に、他方では卵を冷やす怖れが御坐います。

それでありますから、十一時頃から十二時頃迄に、少し外の方が温かくなりました時に、巢から出しまして、餌を食べさせる事にすれば、一番安全で御坐います。

そして若し晝頃に與へると云ふ方針を取りましたならば、必ず其の時間を、規律よく守らなければなりません。

不規則な食事は、獨り鶏に限らず、吾々人間でさへ、健康上宜ろしくないのであります。

又食事の時間は奈れ位の程度が良いかと申せば、之れは他に砂浴をさせたり、又は少々運動させたりする必要もありませんから、夫れ等と合せて二十分位とすれば最も良いのであります。

けれ共若し天氣が悪くて、寒い様な日でありましたならば、十分位に減らしてやる事も必要であります。

砂あびと衛生の心得

次に砂浴の事に付て申しますが、此の砂浴びは、母どりの健康上是非やらなくてはならぬ事で御坐いまして、人間が入浴するのと同じわけのものであります。身體に餘り垢を付けて居りますると、病氣になつたり、害虫や寄生蟲が、細かい羽毛の間につく様になるので御坐いまして、夫れを防ぐ爲に是非共、砂を浴びさせなければなりません。それで砂浴を行ひますのは、一日一回と致しまして毎日餌を食へさせた後にするので御坐います。そして砂浴場には除蟲菊とか、硫黄華の様なものを、混ぜて置いてやりますれば、譬ひ母鶏の身體に害虫が湧きましても、之を殺して仕舞ふに、都合が宜ろし御坐います。兎に角抱卵中は、良く清潔にしてやりまして、病氣にかゝらぬやう、衛生を重んじなければなりません。

それには、毎日一回の砂浴が非常に效能があるもので、御坐いまして、又最も衛生に適つて居ると思ひます。次に砂浴が終りまして、巢箱の内に害虫が発生したら、巢箱を別に取り換へまして、鶏の身體に除蟲菊の粉などをこすりつけてやるのであります。

それから母鶏を外に出す事に就きましたは、大切な問題があるので御坐います。一體抱卵中に、卵が永く温い熱を受けまして、殆んど外氣に觸れる機會が御坐いません。卵の中の胚子は、呼吸が困難になるものでありまして、その爲に發育が遅れる不利益が御坐います。それで時々外の空氣に觸れさせまして、新鮮な空氣を呼吸する事が出来る様にしてやらなければなりません。

時々馬鹿に抱卵に熱心な母どりがありまして、殆んど巢箱を離れませず、いつ迄もく久しい間卵を抱いて居ります。

か様な母鶏が御坐いましたならば、適當な時間を定めまして、手を貸して外へ出してやる様にする必要が御坐います。

然し又鶏に依りますると、一度外へ出ますと、最う巢へ歸へる事を忘れて仕舞ひまして、久しい間遊んで居るやうなものもあります。

か様な場合には、必ず時間を定めて、靜かに巢の中へ逐ひ入れてやらなければなりません。よく世間では、母どりを大切に考ひでやるのかも知れませぬが、巢に這入つて居る母鶏の鼻先

へ、餌入れをあてがひまして、寝た儘で食べさせたりする人が、御坐います。これは非常に悪い事でありまして、却つて鶏の健康を悪くするやうなもので御坐います。兎に角、時々巢を離れる云ふ事は、鶏の衛生上から申しましても、又卵の爲から申しましても、極く大切な事でありまして、一定の時間に外へ出して、砂浴びを致すとか、運動をさせるとか、か様にする事を決して忘れてはなりません。又敷薬等が、糞の爲に非常に汚れます。夫れを關はずに置きますると、母鶏はその爲に健康を損ねるのは勿論、害虫や寄生蟲の發生を促すもので御坐います。此の様に糞の爲に汚れたり、或は卵が破れて、内の物が外に流れ出した爲に汚れたり致しました場合には、是非共新しい敷薬や乾草を、取り換へて入れてやらねばなりません。此の敷薬の入れ換へ等は、母どりが食事や砂浴の爲に、外に出て居る時に、手早く行ふ様にすることが大切です。そして卵を元のやうに、靜かに置き換へてやりませぬと、母鶏は時として、抱卵を廢める事が御坐います。

途中で抱卵やめた時

母鶏は時に依りますと、途中で卵を抱かぬやうになる事が御坐います。其の原因には種々ありますけれども、主に病氣の爲に中止する事が多いので御坐います。又は氣候の關係から、身體の具合で、卵を解へす心を失ふ事もありますし、或は非常な精神上的の衝動、即ち驚きとか怒りとか、その様な種類の精神作用から、抱卵を中止する事があるので御坐います。此の場合に、いくら巢の中へ押し入れても、奈何しても外に出やうと致します。か様な有様で、とても完全に解へす事が、出来ないものでありますから、母鶏を取り換へて、直ぐに抱卵させなければなりません。然し乍ら、直ぐに執巢した鶏が見付かれば、夫れ程困難も感じないのであります。面倒なのは他に就巢した鶏が見付からない場合で御坐います。此の場合には、奈何いふ處置を取れば宜いか、此の事も心得て置く必要が御坐います。

一體卵は、抱卵の最中に冷やされます時には、一時雛に解へる作用を中止するものでありますが然し未だ死ぬ程迄には至りませぬもので、未だ卵の中で生活して居ります。然らば冷やされてから、何時間位生きて居るか、申しまするに、確かな事は云はれないのでありますが、普通は、五時間から六時間位は、生きて居るもので御坐います。極端な卵になると、十四五時間も生きて居る事が御坐います。然し普通は五六時間でありまして、夫れ以上冷やされますと死んで仕舞ふのであります。

それでありますから、是非共此の五六時間内に、他の鶏を見付け出さなければなりません。兎に角他の集鶏が見付かる迄に、なるべく冷却させぬ様に、温かにして置くので、譬へば炭團を埋めた火鉢の様なもの、上に集箱を載せまして、上からは布等を被せて置きます。そして一方では、近所の養鶏場へでも参りまして、巢に就いて困つて居る鶏を借りて来るのであります。

か様に致して、集鶏が他に見付かりましたならば、早速卵を抱せかるのであります。其の前に卵を華氏百〇二度位の湯の中に、約一時間許り浸して置きまして、温めてやるのであります。

か様に致せば、別に大した害もなく、前と同じ様に續けて育つて行くものであります。此の湯の中に浸して置く事も、餘り時間が過ぎますと、却つて良くありませんから、むしろ控へ目に時間を切り上げた方が、成績が宜ろしいと曰はれて居ります。

小雛が生まれ出るまで

以上述べました所で、大體孵化に注意せねばならぬ事柄は、お理解になられた事と思ひます。

即ち雛が生れる迄の順序を致しまして、最初の一日二日間は模造卵で試験をして見る。愈々本當に巢に就いた事が分りましたならば、今度は種卵を抱かせまして、五日目か七日目に第一回の検卵を致しまして、其の時に大抵の無精卵を取り除いて仕舞ひ、二週間目位に第二回目の検卵をして、發育の様子を調べて見るのであります。

此の検卵の前後の時が、抱卵中一番大切な時期でありまして、充分に注意をしなければならぬのであります。

扱て卵の胚子が發育しまして、愈々雛が生れて來ますのは、卵を抱かせましてより、二十一日目と

云ふのが普通でありますが、然し必ずしも左様に決つたわけではないのであります。早いになりますと、十九日目位に生れて出まするし、又晩いものになりますと、二十三日もかゝるので御坐います。

然し普通一般には、三七の廿一日目に、雛が孵へるものだと云はれて居りますから、其の二三日前即ち十九日目頃に第三回の検卵をやるので御坐います。

これが済みましたら、最う雛の出て来るのを、待つ許りでありまして、雛が出て来てからの用意をして置かなければなりません。

慣れない人は、良く卵の殻を破つて、中から雛を取り出してやる様な事を、致しまするが、決してか様な事は、やつてはならないのでありまして、若し卵の殻に故障があり、中に居る弱い雛が夫れを破つて出て来る事が出来ませぬやうな場合には、殻に僅か許りの破れ目を作つてやります。さうして雛が自分で殻を破つて出るのに、都合の良い様にしてやる事が御坐います共、然し多くの場合、充分に自分の力で、破つて出る事が出来るものでありますから、別段人間が手を貸して、引つ張り出してやる迄にも及ばないのであります。

か様な事を致しますると、往々雛の身體を傷けまして、將來の育ちが充分に参らず、悪い結果を招く事が多くある事でありまして、良く注意せねばなりません。兎に角初めて生れて出て来ます小雛は、鳥渡觸つてもすぐ影響を受ける程、左程に弱々しいものだと云ふ、お考へを持つて居なければなりません。

生れた雛の扱ひかた

雛は必ず一齊に生れて出るものとは限りません。

卵に依つて早く孵へるのもあれば、又遅く孵へるものもある事は、前に述べて置いた通りで御坐います。

然し同じ種類の、同じ頃に産れた卵でありますならば、大抵は同じ日に孵へるものであります。若し一齊に雛が生れ出た場合でありますれば、其の儘母どりに抱かせて置いて、差支ひのないものでありまするが、不同に生れて出ました時には、相當な處置を取らねばならないので御坐います。即ち一匹宛時を違ひて孵へりました場合には、生れた小雛を早速静かに取り出しまして、前以て備

へて置いた、籠の中へ鳥の羽や、其の外、柔かな乾草類を詰め込んである處へ、ソット入れてやりまして、温い静かな場所に置いてやるので御坐います。

そして順々に生れて来る者を、收容しまして、全部揃つた處で之を母どりの腹の下へ戻してやるのであります。

さうしませぬと、母どりは雛が一羽生まれましても、最う自分の役目が済んだ氣で、解へらぬ卵などは放擲つたまゝ、巢を飛び出して仕舞ふ場合が多いのであります。

又一齊に解へりました場合にも、卵の殻等は、綺麗に取り去つてやる事を忘れてはなりません。

又解へる前に、一つの卵が、今にも割れさうになつたのを見ましたならば、先づ母どりを外に出してやりまして、餌を與へるなり、運動をさせるなり、自由に致して置き、一方では卵が全部解へつて仕舞ふのを待ち、雛が全く出揃へましたならば、初めて母どりを巢に戻してやり、雛を抱かせるので御坐います。

七面鳥でも雛を解へす

雛を解へしますには、必ず鶏を用ひねばならぬと云ふ事は御坐いません。鶏の卵でも、七面鳥に解へさせますと、都合の良い事が澤山御坐います。

七面鳥と申します鳥は、卵を抱く性質が至つて強くありまして、抱卵にも熱心でそして又仲々上手なもので御坐います。

其の上に身體が大きいから、鶏の場合よりも、二倍位多くの卵を抱かせる事が出来るもので御坐います。

又不思議な事には、其の雄の鳥でも猶ほ卵を抱いて解へす事が出来るものであります。

佛蘭西と云ふ國等では、盛に此の七面鳥を用ひまして、鶏の卵を解へして居ると云ふ事でありまして、それに又、七面鳥でありますならば、第一回目の卵を解へしましてからでも、更に續けて第二回目第三回と、幾度でも解へさせる事が出来ます。

鶏でありますならば、大抵二回は續けて解へしますけれど共、夫れ以上は身體が衰弱して、とても解へす事が出来なくなります。

七面鳥でありますならば、三回は續けて解へす事が出来ますから、澤山卵を解へしまする場合等

には、至つて都合の良いもので御坐います。
又鶏が途中で抱卵を廢めて仕舞ひました場合に、他に巢鶏を手に入れる事が出来ない時等に、此の七面鳥が御坐いましたら、之れに抱かせる様にすれば、結構充分に孵化させる事が、出来るもので御坐います。

— 孵卵器でやる孵化法 —

器械で雛を孵へす法

親鶏で自然的に雛を孵へす方法に就きましては、大體前にお話致しました。そして又それで充分であらうと思ひます。

素人には此の自然法が一番手数がかゝらず、最も經濟的にやれるもので御坐います。

然し、譬ひ素人の奥様方お子供方と申しまして、十五六羽から、二十羽位の雛を、お孵へしなさうとならばそれで良いのでありますが、之れに満足する事が出来ず、五十羽も百羽も、お孵へしなさうと思はれる方々には、矢張り器械でお孵へしになつた方が、利益で且つ便利で御坐います。

又附近に養鶏家がなくて、御自分の家にも、巢に就いた鶏か居ないとか、之れから初めて雛を飼ふのであるが、一つ卵を孵へす事から試みて見度ひ、など、云ふ方にも孵卵器は必要で御坐います。此の孵卵器を用ひまして、卵を孵へしますには、少々技術も必要でありますし、自然的孵化の場合よりも、ズット手数や注意が必要でも、あるので御坐います。

孵卵器の使用は、鳥渡慣れない人には、面倒なものでありまして、失敗した前例が無數に御坐います。

然し其の失敗も、要するに注意が足りないとか、或は孵卵器其の者が悪かつたりする爲であります。て、良い器械を用意し充分に注意を拂ひますならば、譬ひ夫れが素人で全然慣れて居ない人々にも案外見事に成功する事が出来るので御坐います。

要するに孵卵法は、一種の技術ではありまするが、技術が老巧になつて居りまして、注意が足りなければ失敗すると同じ様に、譬ひ全く慣れない人でも、熱心に注意を拂ひまするならば、成功する事は疑ひなしであります。

夫れ故私は、孵卵器を使用なさる方に、先づ注意深くあれと、お奨めしたので御坐います。

孵卵器に関するお話

孵卵器の作用の骨子と致しまする所は、人間の力で、卵が孵へるのに必要な、一定の温度と、一定の濕り氣とを與へる點にありますので、これが旨く行きま
すものならば、孵へる成績は、自然的にやるよりも良いの
で御坐います。

然し此の温度と濕氣を、絶えず一定に保つて参ります事は
仲々難かしい事でありまして、餘程注意深く取扱ひ、そし
てよくよく吟味して買った孵卵器でなければ、到底望まれ
ない事で御坐います。

それでありまして、孵卵器を買ひます時には、先づ此の
點に良く注意致しまして選ばなければなりません。

孵卵器には様々な種類が御坐いまするし、又此の頃販賣されて居りますものにも、色々方式の違つ



たものが御坐いまして、非常に良いものもあれば、又殆んど用をなさない様なものも御坐います。
それでありまして、先づ専門家に相談を致しまして、其人に買つて貰ひますとか、或は信用の
ある店から、良く〜保證して貰つてから、買入れる様にするのが肝心で御坐います。
其の上に、之れよりお話しする種々な注意を呑み込んで居りまして、良く試験をしてから使用なさい
ませぬと、失敗する事が御坐います。

孵卵器の中で主なる種類は、温湯式と申して湯の力で熱を與へますものと、温氣式と申して火の力
で熱を與へますものと、此の二つで御坐います。

其他に電力で孵へししたり、イックス光線（X線）の力で孵へししたりする者も御坐います共、夫
等は先づ實際的、家庭向きのもので且ふ事は出来ません。

先づ此の内でも、世間一般に用ひられて居るものは温湯式のもので御坐いますから、茲では單に温
湯式の孵卵器に就てお話しやうと思ふので御坐います。

それから、其の大きさ等も、六打入（六打入）か十二打入（十二打入）か、大小様々でありまするが、それは御自分適
宜に定めて、お買入れにならねばなりません。

孵卵器を用ひて利益が御坐いますのは、前述べた事以外に、幾回もく續けて孵へす事が出来ますのと、一齊に雛が孵へりませす共、夫れ程困難を感じないと云ふ事で御坐います。

若し隣り近所で、お互ひに相談し合ひまして、之れから鶏を飼はう等と云ふ時には、共同して孵卵器を買ひ求め、共同して孵へす事が出来ると云ふ便利も御坐います。

なる可くならば、孵卵器を用ふる時には、極く懇意な人達にも奨めまして、一緒に養鶏を始める様に致しますれば、大いに経済的でもありますし、又お互ひに其の親密さも増すと云ふ、一舉兩得な事もあります。

要するに素人の方奥様が養鶏をなさる等と云ふ事は、これは一つの趣味と申しても宜いのであります。此の趣味を同じくする隣り近所が多ければ多い程、交際の圓滑を計る事が出来る様になります。

即ちか様に考ひますると、奥様方の養鶏は、取りも直ほさず交際術の一つであると申しても良いので御坐います。

孵卵器の良い置場所

孵卵器を用ひます場合に、奈何いふ所に据付ければ良いか、か様な事を先づ第一に考ひる必要が御坐います。

置場所が悪かつた爲に失敗した等云ふ實例も、澤山御坐いますから、場所に付ても、大いに注意を拂はなければなりません。

場所に付ては色々な要件が御坐います共、肝心な事柄丈けを次に述べて見ます。

一、静かな場所

之れが先づ第一に大切でありまして、地響がしたり、ぐらついたりする處は良くありません。据え付けましたら最後、地震でも揺らなければ、容易に動かない云ふ所が良いので御坐います。それでありませすから、お子様達が良く出入して、騒ぎ立てる恐れがある所は、大禁物で御坐います。

二、日が當らぬ所

日が當る所はいけません。日光の爲に温度がよく變りますから、其の怖れを避ける爲に、必ず日光

が直接に當らぬ場所に置かねばならぬので御坐います。

三、風の這入らぬ所

風が這入らぬと申しましても、空氣の流通が不十分な所は悪いのであります。兎に角ランプの焰が消えたり致しまして、温度に變化を與へますから、風の吹き込まぬ様な所を選ぶのが良いので御坐います。

但し空氣の流通は常に充分に行く所で御坐いませんと、卵は生きて居りまして呼吸をするものでありますから、害を受ける事が御坐います。夫れ故常に新鮮な空氣が出入して居る處を、選ぶ必要が

四、温度の變化の少い所

これは勿論の事で御坐いまして、温度の變化が烈しい様な所では、直接に孵卵器内の温度に影響を與へますから、良くないので御坐います。

先つ之れ丈けの事に注意すれば、間違ひはありません。

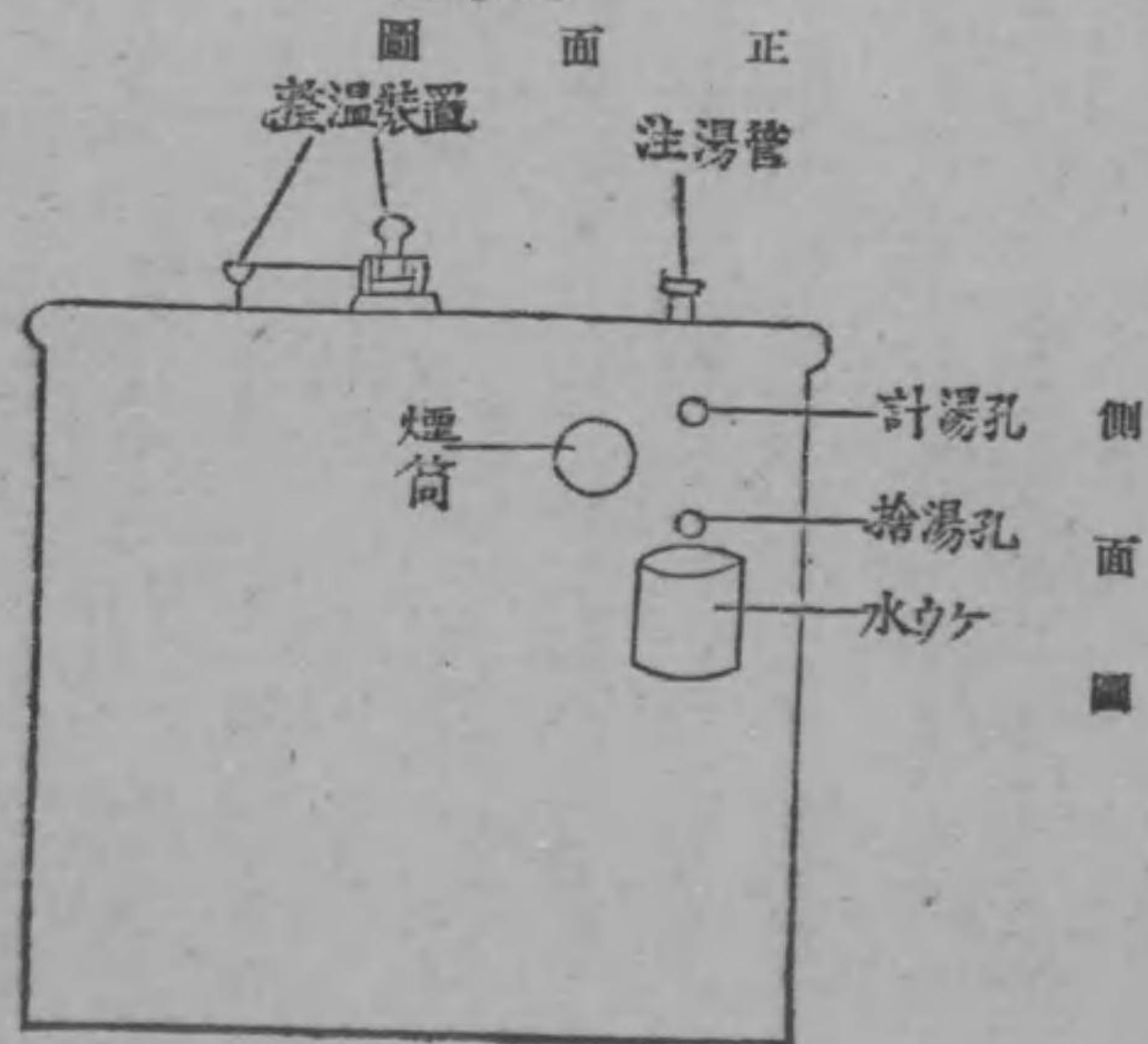
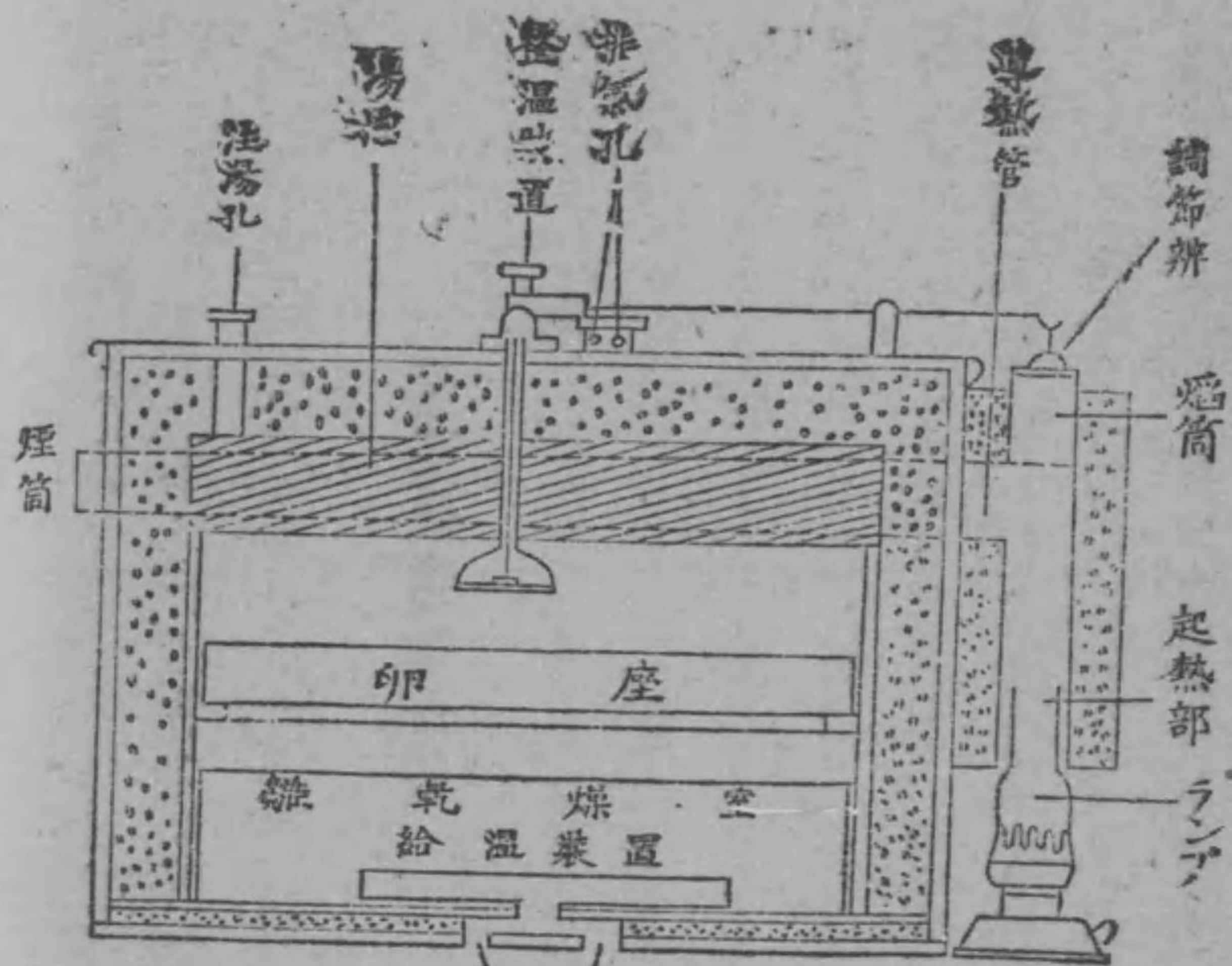
それ故に、人が餘り這入らぬ奥の座敷とか、又は土蔵の中とか、さう曰ふ所が宜ろしいのでありま

して、廊下の隅に置いたり、椽側に出して置いたりする事は、絶対に禁じなければなりません。それから、便所の側で臭氣が盛んに參る様な所、或は臺所の側で、炊事の煙などが盛に這入つて來る様な所なごも卵に害が御坐いますから、是非避けなければなりません。

孵卵器構造圖の説明

前に述べました通り、孵卵器には其の種類が多いので、其の各々に就て説明したり又は圖解致しますのは面倒で御坐いますから、茲に省略致しまして、單に温湯式のもの丈けに就て説明致します。他の種類とても、其構造は大同小異で御坐いまして、器械の各部の位置が少々變つて居たり、或はつまらぬ部分が、有つたり無かつたり致しますので、孵卵器の生命とする様な、大切な部分は、何づれも同じ様なもので御坐いますから、温湯式に就きましても、一般に通ずる様な點丈けを、略圖を以て次に示しました。勿論器械を買入れます時には、大抵其の器械の構造圖と、使用法を書いた本が付いて居りますから御覽になれば直ぐに分ります。

挿繪に就て一寸説明すれば、先づ卵坐へ卵を入れ、ランプや湯槽に依つて温熱を受け、整温装置で



温度が加減され、給湯装置で蒸氣を供給され、雛が孵へりましたら、雛乾燥室で乾燥してやる、と云ふ、大體か様な仕掛けになつて居るもので御坐います。それで、湯は注湯孔から這入り、空氣は通氣孔から侵入しまして、排氣孔から出るの御坐います。

熱源装置の解き明し

熱源装置は、湯槽、ランプ、導熱管、煙筒、から出來て居ります。湯槽の中には、熱湯が這入つて居りまして、これが即ち熱の源となつて、種卵の内部に、温度を與へるので御坐います。然し此の熱の源になる熱湯は、いつ迄も其の温度を保つて居る事は出來ません。必ず冷えて参りますから、これを冷やさない様に、他から絶えず熱を供給してやらなければなりません。

其の役目を致しますのが、ランプと導熱管でありまして、ランプの火氣が絶えず、導熱管を傳はりますして、湯槽内の湯を温めてやるのであります。導熱管は、良く熱を傳へる様に、亞鉛とか眞鍮などで造られ、湯槽の中を横斷して居ります。

時に依ると、火氣が強過ぎまして、餘り温度が高くなりますと、其の温度を下げる爲に、整温装置の作用で、一部分の火氣は、燭筒から外に放出される仕掛けになつて居ります。(後述)
それから湯槽や導熱管の周囲は勿論、其他の部分全體の周囲は、熱を逃したり又は外界の温度の影響を受けずに、容易に熱を傳へない不良導體、例へば鋸屑等で、一溢に詰められて御坐います。

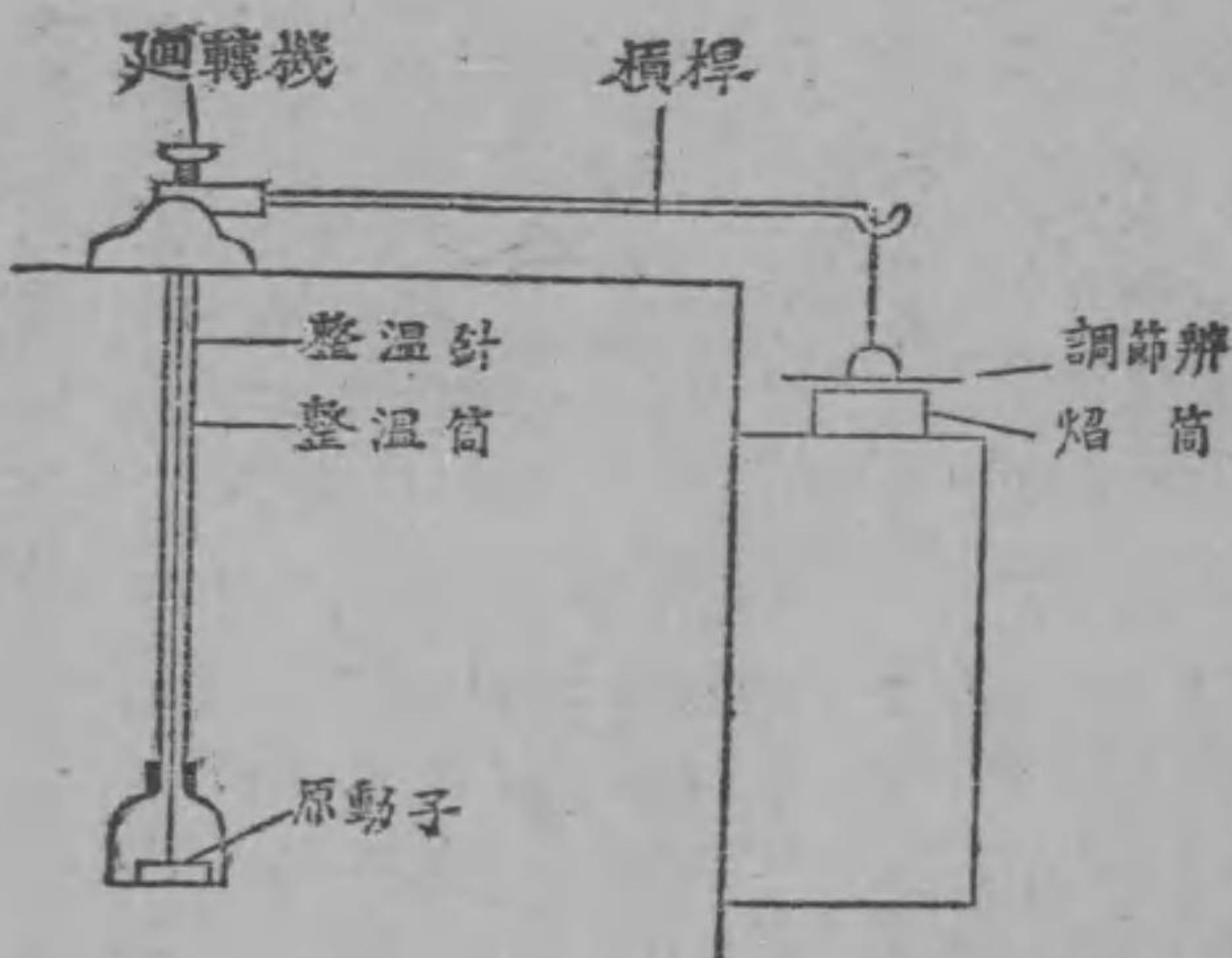
煙筒からは、常に火氣や油煙が吐き出される事になり、湯槽内の熱湯は、背後にある計湯管や捨湯管(側面圖を見よ)から外に出るわけでありまして、湯は注湯管から注ぎ込まれるので御坐います。

整温装置の解き明し

孵卵内の温度は、常に一定に保たれて居なければならぬのでありますが、これは仲々旨く行きませず時々變るもので御坐います。

従つて整温装置など、曰ふ、特別な温度を調節する仕掛けが必要になつて参ります。

整温装置の主要な部分は、原動子、整温針、廻轉機、槓桿、調節弁、などでありまして、之等が互



に連絡して温度の調節をやるので御坐います。

原動子は、温度が上つたり下つたりするにつれて、膨らんだり縮んだり致します。其の眞上には整温筒が續いて居りまして、筒の中を眞直に整温針が垂れ下つて、其の尖つた尖端が、原動子の凹みに乗る様になつて居ります。

そして此の針は、上部の廻轉機に連絡して居りますから、今孵卵器内の温度が、昇り過ぎますと、整温原動子が膨れまして、整温針を上へ衝き上げます、従つて整温針は廻轉機の螺旋を突き上げる事になります、此の作用が廻轉部に依りまして槓桿に傳はり、煙筒の蓋になつて居ります調節弁が開かれます、火氣の一部分は其の開かれた所

から逃げ出します。

其の爲に導熱管を通る火氣は、少くなり、湯の温度は下りますから、従つて孵卵器内の温度も下つ

て参ります。

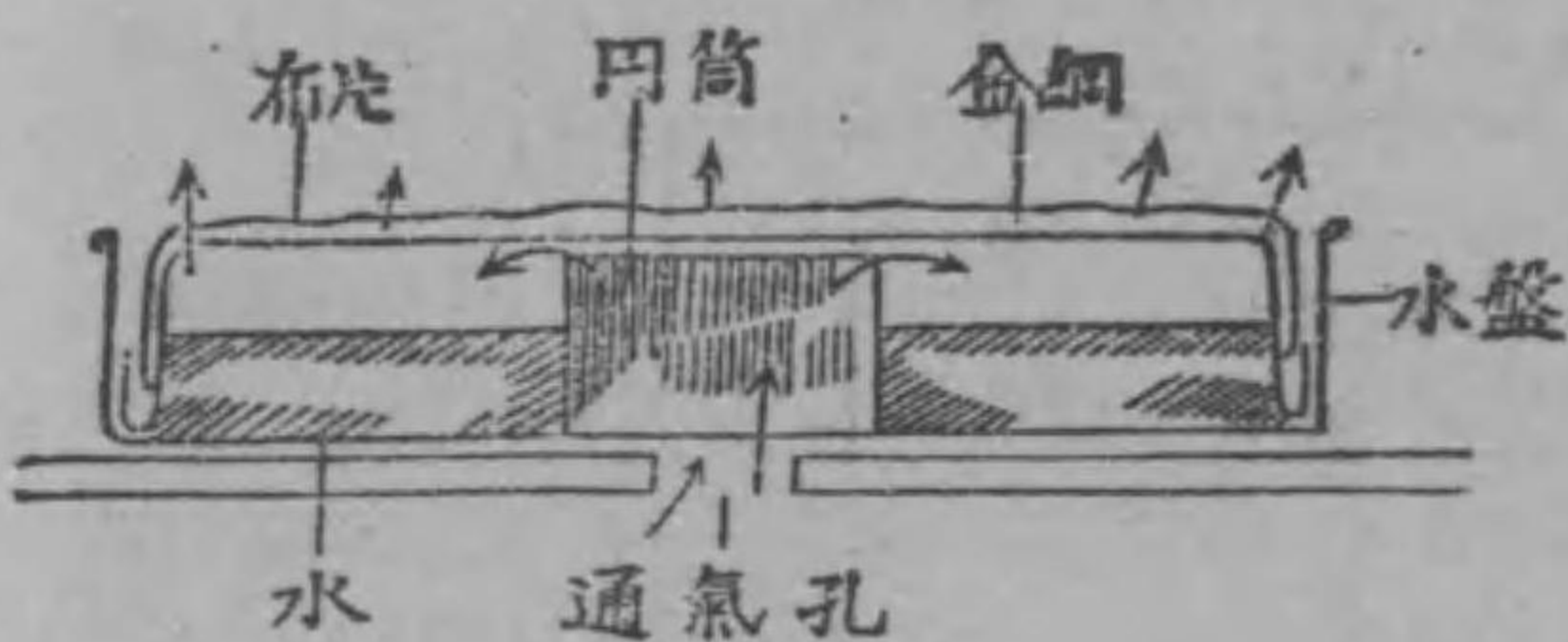
温度が下つて来ますと、原動子は今度は収縮して凹みますから、整温針は引下げられ、前と正反對の作用で、調節弁が煙筒の蓋を致します。か様な事が繰り返へされまして、常に温度は平均を保つて行く事が出来るのであります。

給濕装置の解き明し

雛を解へしますのには、適當の濕り氣が必要で御坐います。即ち孵化熱に對して相當の濕氣を與へませぬと、卵は乾燥致しまして發育を害せられます。

それ故給濕装置が出来たのであります。給濕装置は中央に圓筒を具へた水盤と、其上を掩ふ金網、及び夫れに被せる目の粗い布片れ、などから出来て居ります。

金網と布片れとは、水盤の底迄垂れて居りますので、濕氣は布片れ一帯



に行き亘る事が出来た。

其處へ下の方の通氣孔から参ります、新鮮な空氣が、中央の圓筒を通り、件の濕つた布片れを通じて、濕り氣を含む儘、孵卵器内に這入りますから、充分に濕氣を供給する事が出来るので御坐います。

それに孵卵器内の温度に對して、適當な濕氣は、絶えず布の面から蒸發致しまして、空氣と共に昇りますので、濕氣が少な過ぎる様な心配も無く、又多過ぎる様な心配も餘り御坐いません。

か様な仕掛になつて居るので御坐いますが、稀には、寧ろ新しい孵卵器に申しましても良いのであります。

給濕装置の無い孵卵器も御坐います。之れは普通の孵卵器と違ひまして、孵化室が完全に出来て居りまして、室内の空氣が、適當に濕氣を含む事の、出来る様に造られて居ります爲に、特別に給濕装置を、設ける必要がないのであります。

卵坐と雞乾燥室の話

卵坐は卵を載せて置く所でありまして、抽出になつて居ります。

底は金網で張られ、其の上には白い布を、被せてあります。此の布はなるべく目の粗いのが良いのでありまして、下から空気が参りますのに、便利であるやうに造られて居ります。

雛乾燥室は、雛が孵へりました許りの時に、身體の濕氣を乾かす爲のもので御坐いまして、底は金網が張られ、矢張り抽出になつて居ります。

金網の上には普通白布が敷かる、ものでありますが、時には其の上に粗穀や、羽毛などを敷いて置きます。

それで、此の乾燥室内に、前に述べました給濕装置が置かれまして、給濕装置の圓筒は、孵卵器の底に設けてある通氣孔の眞上に當る様に、置かなければなりません。

又卵坐の抽出の正面には、硝子が貼めてありまして、茲から内部に置いた寒暖計を、見るやうになつて居ります。

換氣装置の解き明し

孵卵器の中には、常に新鮮な空気が通つて居る様に、致しませぬと、卵の胚子は其の發育を妨げられるので御坐います。

それで、古くて炭酸瓦斯の多い空気が、上部の排氣孔から外に排出されまして、新鮮な空気が、通氣孔を通り、給濕装置で充分に濕氣を受けまして、孵卵器の中へ這入り込むやうに、造られて居るので御坐います。

又此の換氣作用を、完全に致します爲に、孵卵器は四本の脚で支へられ、通氣孔から良く外の空気が、這入り込みます様に、下方の空間を広く取りまして、自由に且つ完全に、空氣の流通を計つて居ります。

孵卵器を用ふる順序

却説、前項で大略、孵卵器の構造と其の作用の理屈が、呑込まれたで御坐いませう。これから愈々、孵卵器の用ひ方を、順序を逐ふてお話しする事に致します。前にも申しました通り、孵卵器を用ひますには、熟練と極く細かな注意とが、必要で御坐います。

て、それには矢張り、順序正しく規律的に取扱ひを、致しませぬと、意外の失敗を招くもので御坐います。

奈何も此の孵卵器は悪い、など、故障を云ひ立てる人が御坐いますけれども、其の多くは、器械に罪があるのではなく却つて其の使用する人にある事が、多いので御坐います。

即ち使用致します際に、何の順序もなく、出鱈目に致しますので多くは失敗するのであります。

孵卵器の構造や其の理屈をよく心得て、それから順序よく、注意を拂ひながら使用致しまするならば、譬ひ孵卵器に、僅かの缺點がありましたも、左程の不結果を來すものでは御坐いません。

何處製の孵卵器は駄目だ、卵は一つも孵へらぬなど、攻撃をなされる前に、果して自分が秩序的に周密な注意を拂つて、孵卵器を使用したか奈何だか、と云ふ事を先づ第一に顧みなければなりません。

先づ孵卵器の大掃除

愈々孵卵器を使用すると云ふ事になるのでありますが、其の順序として、先づ第一番に必ず行はね

ばなりませんのは、大掃除即ち清潔法で御坐います。

新らしく買入れました場合には、遠方から荷造りにして、送つてよこされたものでありますから、孵卵器の内部は、必ず塵芥や、不潔物が澤山積つて居ります。

又昨年のもを、今年再び用ひますにも、今迄使用されて居なかつたのでありますから、不潔になつて居るのは、云ふ迄もない事なので御坐います。

夫れで必ず使用する前には、大掃除をやらなければなりません。

抽出は全部抜き出しまして、塵の残らぬ様に掃ひ清めます。ランプの様なもの、石油入は勿論、ホヤ等も充分に綺麗にしてやらねばならず、又燈心の様なものも、新しいのに取り換へる必要が御坐います。

それから、導熱管、煙筒、通風孔、排氣孔、注湯管、か様な各部分も、残らず綺麗に掃除を致します。

斯な事は、別に云ふ迄もない事ではありますが、つまらぬ事だと、馬鹿に致して、やりませぬから失敗するので御坐います。つまらぬ事柄に、重大な意味があるのだと云ふ事を、深く心に入れて置

く必要があります。

兎に角消毒法等も、夫れ程大袈裟に致しませず共、清潔法丈は、最初の出發點に於て充分に行ひませぬと、其後は概して面白くない結果に、なるのであります。

不潔にして置きました、塵や芥の積つた儘に放任致しますると、即ち整温装置は勿論の事、其の他の各部分も、充分に其の作用を盡す事が出来ませず、とかく狂ひを生じ易くなるので御坐います。人間が器械を使ひます場合に、殊に温度を調節すると云ふ様な、微妙な作用をする器械を、用ひまする場合等には、少しの塵でも器械の間に狭つて居らぬ様に、御注意なさるのが、一番大切な事で御坐います。殊に、温度と濕氣を與へて置きまする、孵卵器等には、不潔に致すと、害虫の發生を見る事がありますから、殊に注意を要するので御坐います。

孵卵器の据え付け方

清潔法が終りましたならば、器械の組み立てを致します。

抜き出した抽出は、元の通りに收め、底の方には四本の脚を付けまして、前に述べました適當な場所へ、据え付けるので御坐います。

此の際に最も注意せねばならぬ事は、必ず水平に据え付ける事でありまして、若し少しでも傾いて居りますと、其の爲に整温装置や、給濕装置に影響を及ぼすもので、種々な不都合が、其の他にも起つて参ります。

それで必ず水平に据え付けねば、ならないので御坐います。

それには、下の方に臺として、厚い板などを置きまして、決して動かぬ様に、決して傾かぬ様に、孵卵器を其の上に乗せるので御坐います。

給濕装置の用意せよ

其の次には給濕装置の用意をするのであります。

水盤へは水を六分目位に充たしまして、其の上に金網を被せ、目の粗い白布を以て掩ふので御坐います。

さうすれば、水分は自然に毛細管現象で、布一面に行き亘る事になります。然し又さうして置いて、上から霧を吹いてやつても、よいので御坐います。

此の用意が出来ましたならば、雑乾燥室の抽出をあげて、水盤の中央にある圓筒の孔が、丁度底にある通氣孔と、一致する様な位置に置きまして、抽出を納めます。

それが終つたならば、卵坐の抽出を抜いて、中へ寒暖計を入れ、又それを元へ納めてやるので御坐います。

熱湯の注ぎ入れかた

其の次に致しますのは、熱湯の注入でありまして、これは上部に在る注湯管から、注ぎ入れるのであります。

其の方法は、靜かに注ぎ入れまして、計水孔から湯が流れ出る迄になりましてから、止めるので御坐います。

尤も捨湯管には、前以て固く栓をして置かねばなりません。

熱湯は煮沸させた許りのものを、直ぐ注ぎ入れたのでは良くありませんから、一度煮沸せましてから、少しく間を置いて冷め加減になつたのを、用ひる様に致します。か様にすれば、湯槽の爲にも良く、永く持つ事が出来るので御坐います。

次にはランプの用意

湯の注ぎ入れが終りましたならば、次にランプの用意を致します。

即ちランプ臺の針金を、起熱部の鈎にかけて吊しますとか、又はランプ臺を載せる様に出て居る物があるなれば、其の上に行儀よく、のせて置けばよいのであります。

臺を載せましたならば、今度はホヤを煙筒中に下からさし入れまして、ランプ臺にのせ、火をつけるのであります。燈心は必ず片曲りにならぬ様、充分に平らに剪りまして、油煙等が立たない様にしなければなりません。

それから煙筒の上部に、被ぶさつて居ります調節弁は、口元に殆んど擦れく位に、致しまして、そして横桿が動きませぬ様に、前以て用意して置く必要があります。

ランプに用ひる石油は、下等なものはいけません。下等な石油になりますと、温度は低いし、それに油煙が立ちまして始末にいけぬもので御坐います。従つて成る可く品質の良い石油を用ひ、時々注ぎ足しまして、途中で火が消える様な事の無い様に心掛ける事が大切で御坐います。若しホヤに油煙が付いて、黒くなつたり致しました場合とか、又は毎日一回だけは、ホヤの掃除と燈心の剪除とを、怠らぬやうにせねばなりません。油煙がホヤに付きますと、著しく温度を下けますもので、温度調節の作用を、妨げる結果となるもので、御坐います。

器械に故障はないか

前に述べました事は、大體の準備でありまして、これから愈々、卵を入れると云ふ順序になるので御坐います。其の前に器械に故障があるか無いか、各装置に就て検査をするので御坐います。元來器械ご申すものは、鳥渡した事で、狂ひを生ずるもので、又其の作用は微妙なものであります。

るから、鳥渡の故障がありましたも、役に立たぬ事が多いので御坐います。

長らく使はずに置きましたものは、其の器械に故障が出来て居る事も御坐います。又新しく買入れました器械は、外面上はよく備ふて居りまして、扱て愈々實地に使用して見ますと、故障の續出する事が多いので御坐います。

それで使用する前には、是非故障が有るか無いか、それを検査致しまして、實地に使つて見なければなりません。

若し故障や、不備の點が御坐いましたならば、早速修繕するとか、補充するとか致しまして、それから使用せねば、失敗に終るものであります。

殊に素人の方で、初めて器械を用ふる方々には、是非共此の検査の爲許りでなく、又練習の爲にも試みに使つて見なければなりません。

それ故に、器械を据え付けましたから、愈々卵を入れます迄には、數日間試験して見まして、扱てそれから火力の程度を定めるとか、整温装置の具合を呑込むとか致しまして、其の上で、初めて本當に、孵卵に取り掛るので御坐います。

大切な火力の程あひ

却説、前に申しました通り、湯槽内には湯を注ぎ入れ、ランプには火を點じ、扉を全部閉じて仕舞ふたならば、今度は、ランプの焰を奈れ丈けにすれば宜いか、其の加減を定めなければなりません夫れには先づ、調節弁を取り外しまして、焰筒の上に僅か隙間を造つて載せかけて置きます。そしてランプの焰を少し大きくして置いて見ますと、其の熱は導熱管を傳へ、更に湯槽から解卵器の内へ傳はります。

か様に致しますと、温度は次第に昇つて参りまして、直ぐに華氏の百三度位迄になりますから、今度は少しく焰を小さく致しまして、約二時間から三時間位、關はずに置きます。時間が経ちましたなら、今度は温度を見るのであります。此の時に、或は前よりも昇つて居る事も御坐いますし、又は遙かに下がつて居る事もあります。若し昇る様でありましたら、更に焰を小さく致し、下る様で御坐いましたならば、焰を大きくするのであります。

か様に致しまして、又二時間位關はずに置きます。

斯な事を、幾度も繰返へして居る間に、百三度の温度を保つには、焰の大きさを奈れ位にすれば良いか、其の加減が大體分る様になります。

此の焰の見當が付く様になりますれば、先づ良いのでありまして、素人の方には鳥渡難かしい様ですが、それでも四五日此の事丈けに費す考ひで、辛抱強くやらなければ駄目であります。

少し慣れて参りますと、火力の程あひを定めるのは、思ひの外容易くなり、四五時間で見當が付く様に、なるもので御坐います。

此の火力の程度を知つて置きますのは、大切な事で御坐いまして、ランプの大きい小さい、地方地方の寒さ暑さ等の關係で、解卵器の温度を百三度に保つ焰の大きさは、決して一定して居るものではありません。

それで自分が用ひて居るランプで、其の土地の温度のもとでは、是れ丈けの焰にして置けば、恰度解卵器を百三度に近く保つ事が出来る、と云ふ見當を覺えて置く事が、必要でもあれば、又利益のあるもので御坐います。

整温装置の調べかた

大體焔の加減も定まり、百三度の温度も凡そ一定しましたならば、次に整温装置の調節に取り掛るのであります。

即ち整温装置の各部分、互に取り付けまして、横桿を上へ跳ね上げ、廻轉臺の中央にある孔から整温針を、尖つた先端を下にして挿し入れ、整温臺の上迄届かせ、それから横桿を倒して、整温針の頭が、螺旋の下部にある凹みに當るやうに致します。

次に整温原動子を、整温臺の上にのせまして、整温針の先端を、其の中央にある凹みに當る様にすれば、宜いので御坐います。

扱て之れで用意が出来ましたわけで、之れから愈々調節をやるのであります。

夫れには調節辨を横桿の鉤に吊しまして、螺旋を靜かに下して參りますと、横桿の前端が上り、調節辨が焔筒の口を離れるので御坐います。

此の螺旋を動かしますのは、調節辨を懸け吊し、焔筒の口に載せた儘、二十分か三十分位経つた後に、致さなければなりません。それで二十分位経ちました後に、螺旋を下けまして、調節辨を焔筒の口から、約一分位の間隔を保たして、上の方に離して置いて、暫く其の運動を見て居ります。

此の時若し調節辨が閉じる様でありましたら、螺旋を更に捻じ下ろしまして、開く様に致し、又若し調節辨が更に開く様で御坐いましたら、螺旋を捻じ上げまして、閉じる様に加減致し、常に僅かだけ開いて居る程度にして置くので御坐います。

か様にすれば、丁度百三度の温度の場合の状態になるので御坐います。却てか様に致して置き、次に孵卵器内の温度を見まするに、其の温度が、百三度より或は昇り、或は下り致しまして、其の度毎に、調節辨は夫れに伴ひまして、或は開き或は閉じ、火力を外に出してやつたり、又は之れを遮り止めたりして居ります。

それで初めて孵卵器の温度が、調節されました、常に一定を保ち得る事となるので御坐います。

卵坐へ卵の入れかた

先づ之れで、大體の用意は出来ました。

扱て之れからは、種卵を入れる許りで御坐います。

然し此の入卵法も、無暗矢鱈にやりましたのでは、不可ませぬ。矢張り相當に注意をして、色々考ひて見る必要が御坐います。

先づ以て卵坐に白布を敷き、卵を載せる用意をして置きまして、一方では、之れから入れやうとする種卵を、數時間前から、温い部屋に入れて置きまして、漸く温まり出した頃に、一つく卵坐の上に並べるのであります。

何故數時間前から、温めて置かねばならぬかと申しますると、急に冷へた卵を入れますれば、器内の温度は急激に下りまして、調節が亂されて仕舞ひまするし、又種卵の方でも、急に温い處へ入れられますよりも、徐々に温かな處へ入れられた方が、害を受ける危険が、少いので御坐います。

卵の並べ方に付きまして、種々なやり方がありますが、素人が解へすのは、夫れ程の多數でも御坐いますまいから、何づれも横に寝かして、並べた方が良いのであります。

然し少しく多數を解へします場合には、圓い方と鋭つた方とが入れ違ひになる様に、並べますと、

幾分か數多く並べる事が出来ます。

正しく列を造つて並べるのは面倒でもありますし、それに又大した利益もない様で御坐います。

只數多く入れる爲に、圓い方を上にして、斜めに立てかける様にするのは、或は並べる數が、多くなり得る利益があるかも知れませぬけれども、卵の廻轉をしたり、置き換へたりするのに、不便で御坐いますから、餘り好ましくないのであります。

けれ共、卵を重なり合ふ程入れる場合もありまして、それで大した不利益も見ないと、云はれる程でありますから、斜めに立てかけて並べる位の事は、別段取り立て、排斥する程でもなからうかとも思ふのであります。

只理想的のお話をして居りますので、一つく離して横に寝かして並べた方が、一番宜いと云ふ迄の事で御坐います。

寒暖計のつかひかた

解卵器に用ひまする寒暖計は、華氏の標示のあるものが良く、現今では大抵解卵器用寒暖計が、特

別に出来て居りますから、夫れを買ひ求めて使用するれば宜ろしふ御坐います。其の使用法に就て、烏渡お話する事に致します。



却説寒暖計を置きます場所は、卵坐の中で抽出の前面の扉と平行に、寒暖計の臺を置くので御坐います。そして扉からは約五寸位の間隔を隔てました方が、良い様であります。温度を調べます爲に、一々取り出して見る手数を省く爲に、扉には硝子板がはめてありまして、其處から眺められる様に、造られてあります。卵を入れました場合には、寒暖計臺は、卵の爲に隠れる程になつて居りまして、別段に差支へはなく、只水銀球丈は、卵の上に載つて居る様にした方が、良いので御坐います。元來卵坐内の温度は、上部と下部とに依りまして、其の違ひがありまして、空氣は常に膨脹して上昇しますから、自然に其の差も大きくなるので御坐います。

又卵に就て考ひましても、其の上の方と下の方とは、温度の違ひが御坐いますから、寒暖計を卵の下の方に置きましたり、又は卵坐から遙かに上の方に置いたりしたのでは、完全に標準温度を卵に與へる事は、出来ません。

要するに、卵坐の標準温度と曰ひますのは、母鶏が抱いた場合に與へる温度の事でありまして、然かも且つ卵の上部が受ける温度を意味するわけでありますから、従つて卵の上部に於ける温度を以て、卵坐の標準温度としなければなりません。

そこで、寒暖計の水銀球丈は、必ず卵の上に載るやうにして置けば宜いので御坐います。尤も之れは厳密に申しました事で、温度の調節なる者からして、第一に夫れ程精確に行くもので御坐いませんから、卵の上と下との温度の差などは、敢て問ふ可き程の問題でも御坐いませんが、然し理屈としては左様なわけでありますから、完全を期する場合には、成るべく今申した趣旨に従ひました方が、良い結果を得られるので御坐います。

又卵を入れましたから、暫くしますと、卵の温度が適當の度合ひまで上るもので、急に火力を大きくして、卵の温度を上げせやうなどと、致してはなりません。

少々時間は永くかゝりましても、徐々に卵の温度が上るのを待った方が、失敗が少いのであります。其の様なわけでありますから、實際に種卵を入れますのは、温度と整温の調子が、充分胸に這入つてからの事にすれば良いのであります。其の上種卵を入れました第一日目には、最も良く注意して、温度と調節の關係を監視致しまして良くく呑み込む心掛を持ちますれば、翌日あたりからは、大變に取扱ひが、容易くなるもので御坐います。

卵は朝入れるが利益

孵卵器へ卵を入れますのには、朝早くした方が良いのであります。夫れには前の日に、器械の用意を致しまして、殊に整温装置や寒暖計の試験を試み、愈々故障が無いと認めましたならば、翌朝早々、夜明け頃から用意を致し、幾分温めて置いた卵を入れますのであります。そして此の日は、大いに注意を拂ひまして、孵卵器の温度の變化を監視いたし、若し少しでも狂ひが出来た様でありますならば、早速夫れを調節してやるのであります。

か様な事を、幾度でも繰り返へして居ります間には、殆んど狂ひも起らず、温度の調節は旨く出来るやうになります。

夫れには殆んど一日を費す事となりますから、特に卵を入れるのを、早朝に選びましたわけで、之れが夕方でも入卵致さうものなら、夜中に温度の變化などが御坐いました場合には、非常に不都合が起るわけであります。

殊に春先や秋などは、夜の氣温は、著しく下るものでありますから、夕方などに卵を入れるのは、是非避けなければなりません。

それで第一日目には、朝から入卵に取りかゝるものご致しまして、夕方外の氣温の下り出しましたならば、孵卵器の温度に、充分注意を拂ひまして、寝る前には、少しくランプの焔を大きくしてやる必要が御坐います。

一番大切な卵の廻轉

卵を孵へしますのは、親鶏が行ひますのが一番自然のであります。人爲的に孵へす場合にも、必

ず自然に適合する方針を、取る事が當然であらうと思ひます。

従つて母鶏の行ふ様な事は、大抵出来る限りは、行つてやらねばなりません。

母鶏が卵を抱いて居る様子を見ますに、絶えず巧みに卵を廻轉させて居ります。

これは理屈の方から申しますと、卵の内部に在る胚子の浮游を完全に、させます事と、卵の上部

と下部と、均等に温熱を受ける事が出来るやうにするのであります。

人間が孵へしてやります場合にも、必ず之を行つてやらなければなりません。

卵を入れました最初の日は、温度の調節に、全力を用ふる必要が御坐いますから、それにも及びま

せんが、第二日目からは、是非共勵行せねばなりません。

其の回数、一日に一回で良いと云ふ人も有れば、二回せねばならぬ、或は三回が良い、など、云

ふ人もありまして、必ずしも一致して居りませぬ共、私は一日に二回だけ、朝夕に分けて行つ

た方が良いと思ひます。

其のやり方は、先づ側に座布團の様なものを置きまして、卵坐の抽出をあげ、卵坐の前方にある者

二三列を蒲團の上に取り出しまして、其の他の者は廻轉させて何づれも前の方に移し、そして先に

取り出した卵を、後ろの方へ並べます。夫れと同時に、中央の卵は左右へ、左右の卵は中央へ、か

様な具合に各々其の位置を、變へてやるので御坐います。

廻轉致します場合にも、良く何づれを上にして置いたか、途中で忘れて仕舞ふ様な事があると云ふ

ので、卵に各々印を付けて置く人もありますが、之も一つの思ひ付きであらうと思ひます。

回数、朝と夕の二回で澤山だと思ひますが、三回でも悪くは御坐いません。

然し餘り度々抽出を出し入れする事は、温度の調節を妨げる怖が御坐いますから、私は先づ二回が

適当な所であらうと思ひて居ります。

又廻轉をする爲に費す時間は、卵の數に依つて違ひますが、五十個内外なら、大抵二三分内外で

終つた方が良いので御坐います。然し之に要する時間は、次にお話する、卵の冷却と云ふ事にも關

係のありますもので、其の事に付きましては、冷却の時間も共に合せて考へれば良いので御坐いま

す。

卵を冷やす事も大切

卵を冷やす事に就て、其の必要があるか無いかと云ふ事を疑ふて居る人も御坐いますけれども、私は必要だと思ふのであります。

其のわけは、新鮮な空気を呼吸しますと共に、低い温度に一時觸れます事は、胚子が發育する處の活力を、刺戟する原因となるからで御坐います。

然し冷やします事も、度を越しまして、永くなり過ぎますと、却つて害があると思ひますから、適當な時間に限らなければなりません。

冷却を初めますのは、春や秋であるならば、卵を入れましてから、四五日過ぎて致しました方が良いのであります。

此の冷却は、卵の廻轉と一緒にに行ひますが、得策でありまして、約二十分間位の冷やしましたならば、卵を廻轉し置き換へまして、孵卵器の中へ納めるのであります。

春や秋でも、温い日で御坐いましたら、三十分間も冷却して置いてよいのですが、三月頃の幾分寒さの残つて居る頃なら、餘り永く冷却したり、又は冷却の程度を越したりすると、却つて胚子の發育を害する事になります。

殊に多數を孵化する場合等には、素人ならば、置き換へたり、廻轉したりする丈けにも、餘程時間を費すものでありますから、此の點等も考へて置かねばなりません。

冷やす度あひは、一體なれ位かと申しますれば、分り易く申しますと、眼の縁に押し當て、見まして、ひんやりする位を限度と致します。

若し外氣の温度が、低くありましたら、冷却の時間も、従つて短かくすると云ふ風に、考ひて置かなければなりません。

温度に狂ひが出た時

孵卵器の温度は、百三度を平均と致しまして、百度から百五度位迄は、變化のあるもので御坐います。夫れ以上の狂ひが出た時には、必ず應變の處置を取らなければなりません。

若し百三度を越しまして、百五、六度以上に昇りました場合には、早速扉を開き、抽出を抜き出しまして、充分に冷やしてやるのであります。

其の時間は、外氣の温度に依りまして、違ひが御坐いますから、確かな事は申されませぬが、時間

の如何を問はず、孵卵器内の温度が、百度位に下がる迄、待つ事が必要で御坐います。餘り冷やし過ぎまして、九十度以下八十度位迄に、下げますと、却つて反對に困る事が出来、即ち九十度を、一番低い温度として、之れ以下に下げない様に注意し乍ら、冷やしてやる事が大切であります。

之れは特に、素人の方に注意を要する事でありまして、餘り冷やし過ぎますと、平均温度に返へす迄には、餘程骨が折れるもので御坐います。

若し又百度以下に温度が下がりました場合には、捨湯孔の栓を抜きまして、五合程の湯を流し出し別に沸かして置いた熱湯を、同じ分量だけ注湯管から、注ぎ込みまして、温度を高めます。

すべて、温度の調節は微妙なものであります故、餘程氣をつけませぬと、直ぐに影響が来るもので御坐います。

春は勿論、秋でも、夜の温度と晝の温度とでは、大變著しい違ひが御坐います。

此の點を考ひまして、夜になりましたならば、ランプの焰を少し大きくする様に、常に氣を配つて置く事も、大切に御坐います。

温度が上るとか、或は降るとか云ふ事は、實際にやつて見ますと、屢々起つて来るもので御坐います。此の時に應ずる臨急の處置を、呑み込んで置きますのも、決して無駄事ではないので御坐います。

次第に火力を減らせ

卵の中で胚子が育つて参り、胎雛が成長して血液が、段々増して來ますと、自然に温熱が出て参ります。

澤山の卵が、各々温熱を出して來るのでありますから、全體から申しますと、決して僅かな熱である許りは曰はれません。

殊に一週間目頃からは、其の増加が著しくなつて來ます。それで、其の増加の程度が、僅かであります間は、例の調節辨で旨く調節して行く事が出来なければ共、増加の程度が著しくなると、加減する事が難かしくなりました。兎角狂ひが出来易いのであります。

實際に當つて監視して居りますと、時日が經つに従つて、調節辨は、始終開き勝ちになつて居り

之れは即ち温度の増加を示しますもので、火力を浪費し石油の不経済になりますから、次第に火力を減らして行く様にせねばなりません。

湿氣の加減をなさい

湿度の加減も亦大切な問題でありまして、孵卵器と云へば、湿度の加減許りが大切で、湿度の事は夫れ程でも無い様に、考ひて居りますが、温度と湿度とは離れる事の出来ない、深い関係がありますので、温度の問題が大切であると同じ様に、湿度の問題も大切であります。即ち餘り乾燥させても良くなければ、又餘り湿氣が多過ぎても宜ろしくないので御坐います。湿氣の過不足と雛との發育状態に就きましては、學問上又實驗上、色々な説もありますが、兎に角湿氣が適當でなければ、雛の發育は悪いと心得て宜いのであります。又春や秋は、外氣が乾燥致し易いのでありますから、此の乾燥した空氣を、孵卵器に其の儘通じますのは、孵卵器の中を乾燥させるものであります。殊に器の内は温度が高いのでありますから、

乾燥の害は更に多くなるわけでありまして、其の爲に特に、給湿装置なる者が設けられて居るので御坐います。

然し時に依りますと、給湿装置から與へます湿氣許りでは、足りませんで、孵卵器の中が乾燥する事が、往々御坐います。

それ故、孵卵中は、一回か二回位、卵坐を引き出しまして、上から霧を吹いてやる様にしますが良いのであります。

又之と反對に、給湿装置から蒸發が盛んな爲に、湿氣が過ぎます様な場合も御坐います。

か様な時には、扉を開きまして、乾燥した空氣を幾分導き入れますと同時に、温度の上つた水盤を取り出し、冷かな水と入れ換へてやる必要があります。

然し此の場合に、餘り冷たい水を入れ換へますのは、却つて温度の平均を破るわけでありまして、幾分か温みのある水を用ひなければ、角を矯めやうとして、牛を殺す様な破目に陥る事も御坐います。

又特に一言して置き度ひ事は、少しく乾燥する場合よりも、寧ろ少しく湿氣が多過ぎる場合の方が

通かに有害であると云ふ事で御坐います。

度々行ふ種卵の検査

器械で卵を解へします場合には、自然的の解卵の場合と違ひまして、検査は是非共之れを屢々行はねばなりません。

何故かと申しますれば、解卵器を用ひます場合には、澤山の卵を並べて置いて、互に相接觸させて居るのでありますから、若し其の中に、死んだ卵や無精の卵があると、他の卵の温熱を奪ひ取る許りでなく、段々腐敗して参りまして悪氣を放しますので、他の卵にも之を傳へまして、其の爲に殺して仕舞ふ様な危険が、極めて多いので御坐います。

それ故に、死卵無精卵不良卵などの、排除は必ず厳密に行ふ必要が御坐います。

最初の検査は、卵を入れましてから、四日目に行ひまして、無精卵を悉く除り去りまして、其の後、九日目、十四日目、十八日目、位に、約四回か五回程行ふのが良いので御坐います。

此の検査は、回轉や冷却を行ひます時に、同時に行ひば宜ろしいので、検査をする爲に、別に時間を

をさくには及びませぬ。

検査致しますのには、自然的解化の時と同じ方法で差支ひはなく、只検査器に當て、見ます際には今迄と同じ状態、即ち今迄上を向いて居ました方を、其の通り上に向けたまゝで、検査致しますると、死卵や不良卵の區別が付き易いので御坐います。

又検査して見まして、區別が付きませぬけれ共、何となく疑はしいと思はれる様なものが御坐いましたならば、それは側の方へ片よせて置きまして、翌日あたり再び検査すれば、よく區別がつくやうになります。

兎に角再三検査を行つて居ります間に、生死の區別が付きまますもので、殊に入卵後十日以前で御坐いましたら、容易に見分けが付きまますけれ共、十日以後になりますと、見分けが難しくなります。然し良く注意して致しますれば、分らぬ事は御坐いません。要するに熟練一つでありますから、慣れる事が一番で御坐います。

此の卵の中に、不良卵を混じて置か置かぬか、即ち検査が巧みに行はれたか否かは、解卵器使用の成功如何に關するものでありますから、出来るだけ厳密に検査を行ひまして、苟くも不良卵や死

卵を残して置かぬ様に、爲なければなりません。

卵の殻が破れるまで

入卵後は前に述べました様な、種々の注意を怠らぬに行ひまして、出来得るだけ監視を致します。此の注意が、周到であればある程、孵化の成績が宜ろしいので、入卵後の注意如何、其の取り扱ひ如何が、成功失敗の分れ目となるので御坐います。

即ち毎日卵の廻轉冷却、整温装置の調節、給温装置の管理などを、缺かさずに行ひまして、四日目頃になりましたならば第一回の検卵を致し、無精卵を取り除き、八日目頃からは、火力を次第に減らす事を忘れず、同時に器内の温度を良く検査し、給温装置に水を注ぐとか、又は卵坐に霧を吹くとか、又は必要があれば器内の放冷などもやつて見るので御坐います。

十二三日頃から、更に検卵を度々行ふ事にして、死卵不良卵の取り除きに努め、其の内十八九日目頃になります。卵の殻の内に雛の鳴き聲を聞く様になります。

そして間もなく内に居る雛は、殻を啄き破る事を初めますから、其の時には、破られた孔の内側に

ある膜を検査して見まして、若し其の膜が餘りに白く乾いて居る様でありましたならば、霧を吹いてやるのであります。

か様になりましたら、最早卵を廻轉する事も、冷却する事も廢めて仕舞ひます。

其の代りに、二三時間毎に卵坐を引き出しまして、卵の啄き破られた孔が、下を向いて居るか、上を向いて居るかを調べまして、若し下を向いて居りましたならば、上を向かせてやるので御坐います。

そして此の時には、卵の温度は益々昇つて参りますから、益々火力を弱め、餘り熱過ぎるやうになる事を、防がなければなりません。

○ 生れた小雛の取扱ひ

か様に致しまして、卵を入れましてから、廿日目頃になりますると、遂に雛は卵の殻を破りまして外に現はれて来るので御坐います。

此の際に、空氣の流通に充分注意を致しませぬと、雛の將來に大變害を残すのでありますから、

なるべく空気の出入が良く行く様に、一日に二三回位の扉を開いて、換気法を行つてやるので御坐います。

それと同時に、扉に黒い幕の様なものを張りまして、器内を暗くしてやらなければなりません。

さうしませぬと、生れ出ました雛は、互に明るみへ集る爲に、未だ解へらずに居る卵を踏みころがしたり、又は汚したりする怖れが御坐います。

そして生れましたら、早速雛乾燥室へ入れてやるのでありますが、餘り永く此の中へ入れて置いてはなりません。身體の濕氣が去り、綿毛が乾いて來ましたならば、前以て用意をして置きました育雛器の中へ、入れてやるので御坐います。

これは、澤山の雛の綿毛が乾きます爲に、其の濕氣が、器内に溢れまして、雛の爲に有害となるので御坐いますから、成る可く早く出すのが良いので、永く入れて置かぬ様に注意せねばなりません。それから又、雛を器内から取り出します場合にも、澤山の雛を一度に致しますると、その爲に器内の温度が、急に下りまして、未だ解へりませぬ雛の爲に、悪い影響を與へますから、少し宛三四回に分けて、取り出す様にするのであります。

それから二十一日の朝になつて見ますと、約半分丈は解へつて居ります。

か様になりますと、各々の雛は、呼吸の爲に酸素の必要を著しく認めますから、早速育雛器の中へ、取り出しまして、新鮮な空気を吸はせてやる様に致します。

雛が嘴を開きまして、喘ぎくして居りますのは、此の呼吸が困難な事を示すもので御坐いますから、永く此の状態にして置いてはいけません。早く取り出して、新鮮な空気を吸はせるので御坐います。

二十一日目に解へりました雛を、全部育雛器に移しましてから、残りの卵を卵坐の中央に、寄せ集めまして、温度に非常な注意を拂ひ、百三度から著しく上げたり又は下げたりせぬ様に、良く氣を付けるので御坐います。

か様に致して居れば、續々と雛は殻を破つて現はれ、二十二日目には、殆んど全部解へつて仕舞ひます。

然し又、中には随分遅いものもありまして、二十二日目になりましても、二十三日目になりましても猶未だ出て來ない様なものが御坐います。

か様に孵へるのが遅い雛は、發育の宜ろしくないものでありまして、又將來も餘り成績の良くないものでありますから、二十二日目の夕方か、二十三日目の朝迄待ちまして、夫れでも未だ孵へらぬものは、最早望みなしと諦めまして、取り出して仕舞ふたが良いので御坐います。それから又、育雛器は、九十度内外の温度にして置きまして、それに雛を入れ、靜かな所へ、暗くして置いてやらるので御坐います。

それから後の事は、前篇、雛の話の所に詳しく述べて置いた筈で御坐います。

⑤ 孵卵器のあとしまつ

之れで愈々、孵卵の仕事が終りましたわけで、後は孵卵器の後始末さへすれば、それで全部終る事になります。

即ちランプを取り離し、抽出を抜いて、雛乾燥器及び卵坐の底を外づし、清水で良く洗ひ、日光で充分に乾かし、更に孵卵器の内部も、良く掃除をするのであります。

給濕装置等も良く洗ひまして、第二回目の孵卵を致しませぬものならば、捨湯孔の栓を抜き、湯槽

内の湯を、流し去つて仕舞ひます。

整濕装置のやうなものも、取り離しまして、夫々順序よく納め、四本の脚も取り去り、整然と始末よく取り片付けて、一定の場所へ納めるので御坐います。

之れは、孵化後直ちに行ふにも及ばないのでありまして、湯槽内の濕氣を去る爲に、ランプの火力を以て、靜かに湯槽を温め乾燥させ、其の他の器械の装置も取り離した儘、二三日當りの良い所に乾かして、夫れから納める事にすればよいので御坐います。

奥様とお子様との簡易養鶏法 終

大正拾年四月五日印刷
大正拾年四月八日發行

簡易養鶏法奥附



定價 金貳圓五拾錢

著者 一條 仁

發行者 松野 鶴平
東京市京橋區南鍋町一丁目二番地
隆文館株式會社代表者

印刷者 武木 勝治 郎
東京市神田區三河町二丁目十七番地
印刷所 隆文館印刷所

發兌元

東京市京橋區南鍋町一丁目
振替口座東京八五三番

隆文館株式會社

工學士中田清一先生著

實用衣類の整理

中判 綿洋布綴
定價金 壹圓貳拾錢
送料金 拾貳錢

從來類書は既に多く出版されましたが、或は理論に陥り、或は卑俗に流れ、一として實用に適するものがありませんのは、洵に遺憾の事でありませう。本書は即ち家庭經濟上、社交上一家の趣味上に適合した最も出色のものであります。

葛岡宗吾○西村ト堂兩先生合著

無病天然養生法

中判 綿洋布綴
定價金 壹圓
送料金 拾貳錢

夏は最も多く天然を親しみ得るの時であります。海に山に暑を避ける人達の中には、性來天然生活を熱愛する人と、不治の難病に苦しむ人とありますが、其の人達に對して、如何に天然を利用して健康な身心を築くべきかを示したのが即ち本書であります。

金井紫雲先生著 平福百穂畫伯裝釘

趣味の園藝

定價金 貳圓
送料金 拾八錢

名の如く趣味の園藝なり、また園藝の鼓吹なり。純東洋産の花弁約八十種を蒐集して、その名稱を究め、その歴史を語り、且つ培養法を明叙し、而して配するに花卉の傳説、花卉の神話を以てす。興趣紙に滿ち、綠翠四隣に迫り、清風徐るに起るの感あり。苟も園藝家の座右に必要な良參考書たり。敢て薦む。

金井紫雲先生著

富盛良一、田中花浪兩先生著

盆栽の研究

定價金 貳圓貳拾錢 送料金 拾八錢

草花栽培全書

定價金 七拾錢 送料金 拾貳錢

小池藻波先生著

盆栽法秘訣

定價金 五拾錢 送料金 拾貳錢

廣大なる自然を寸眸の中に眺め、其の玄妙な味はほんとするものは來れ

三重縣那賀郡立農學校校長 谷本龜次郎先生著

◎四六列四三〇餘頁布裝函入
◎定價金貳圓參拾錢送料拾貳錢

合理的農家經營法

新刊

本書要覽

第一編 緒論 第一章、農家經營の意義。第二章、農家經營の目的。第二編 農家經營法。第一章、農家經營の方式。第二章、生産物處分一覽表。第三章、年度末資産増減表。第三編 農家經營の實務。第一章、營業年度の決定。第二章、年中行事の設定。第三章、事業設計調書の作製。第四章、諸帳簿の整理。第五章、農務の督。第六章、物品の購入法。第七章、生産物販賣法。第八章、資金調達法。第九章、財産の監督法。第四編 農家經營上の注意。第一章、生産増加法。第二章、支出減少法。第三章、物價の原理。第四章、農業所得の分配。第五章、農業生計法。第五編 農業經營の資料。第一章、土地に関する事項。第二章、肥料に関する事項。第三章、作物に関する事項。第四章、林業に関する事項。第五章、蠶業に関する事項。第六章、家畜に関する事項。第七章、餘業に関する事項。第八章、家政に関する事項。

本書は農家經營の良法を講じて合理的施設を基本とし、以て農民の天分及び地位の何たるかを自覺せしめ其職務に對する趣味を喚起せしめ、又特に其研究心を刺戟して生産律の増加を計らんとする農界唯一の快著也。

395
107

終

